



## 愛知医科大学 医学部

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL:0561-62-3311(代表)

0561-61-5314(直通)

FAX:0561-62-6690

URL <https://www.aichi-med-u.ac.jp/>

時代の、  
一歩先へ。

# 時代の、 一歩先へ。

少子高齢化社会の到来やグローバル化の進展など、

現在、医療や医学教育を取り巻く環境は著しく変化しています。

そうした中、愛知医科大学医学部では、

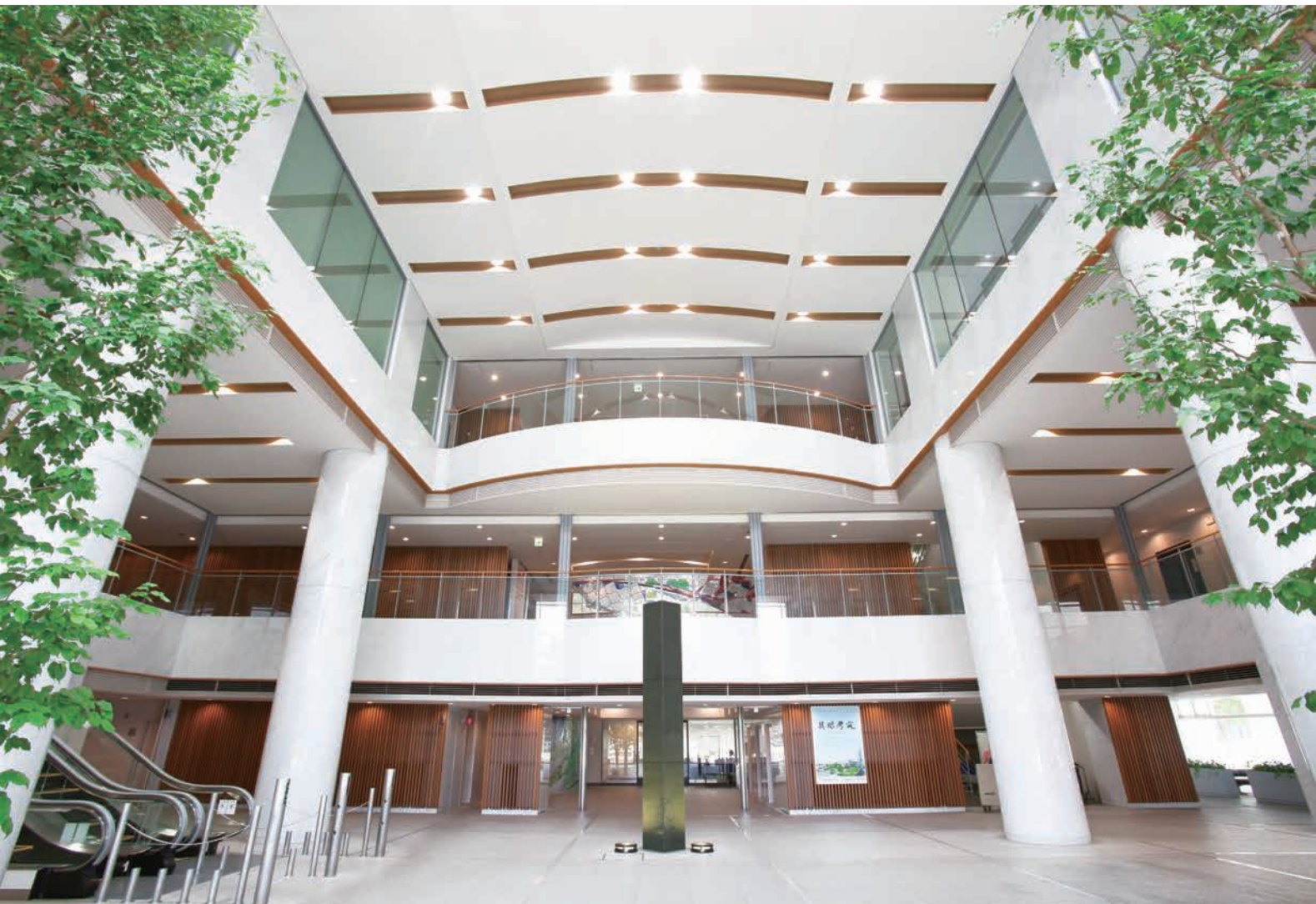
大規模なキャンパスの再整備や医学教育カリキュラムの改革など、

時代の一歩先を見据えた取り組みを積極的に推進。

高度で先進的な知識・技術の修得に留まらず、

「情緒と品格を備えた真の医療人」を育成するために、

愛知医科大学医学部は、たえず進化を続けています。



学是

## 具眼考究

「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立った包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。さらに卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

### 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学医学部のカリキュラムを修得し、卒業時に求められる能力を身につけることができる者として、次の能力を持つ者を求めています。

#### 【求める学生像】

- 1 医学への強い志向と学習意欲を持つ人
- 2 医学を学ぶために必要な基礎学力と問題解決能力を備えた人
- 3 人間性と教養が豊かで、倫理的価値判断に優れた人
- 4 協調性を持ちコミュニケーション能力に富んだ人
- 5 誠実で常に努力を怠らない人

本学医学部が求める学生を受け入れるための入学者選抜は、次の方針により実施します。

- 1 医学部の学生として相応しい基礎的学力の到達度を確認するため、理科・数学・英語の筆記試験を実施します。
- 2 医師として求められる倫理的価値判断、感性、コミュニケーション能力などを判断するため、面接試験および小論文試験を実施します。

本学医学部の学生は、医師国家試験の合格という大きな目標の達成だけでなく、医師に相応しい教養や感性（情緒と品格）を持つことが求められます。入学者の選抜においては、基礎的学力のみでなく、思考力・表現力・学ぶ意欲・コミュニケーション能力なども重視します。また多様な学生の受け入れのため、一般選抜のほかに国際バカロレア選抜など多様な入学者選抜を実施します。

### Contents

- 01 時代の、一歩先へ。
- 03 理事長／学長メッセージ
- 04 副学長／医学部長メッセージ／沿革
- 05 愛知医科大学の特色
- 07 医学教育の、一歩先へ。
  - 臨床教育
- 09 初年次教育
- 11 実習Report
- 12 医療の最前線で活躍する卒業生
- 13 学生による医学研究
- 15 医療の、一歩先へ。
  - 大学病院
- 17 わたしの、一歩先へ。
  - 教育カリキュラム
- 19 愛知医科大学の6年間
- 21 1学年次カリキュラム
- 23 2学年次カリキュラム
- 25 3学年次カリキュラム
- 26 4学年次カリキュラム
- 27 5学年次カリキュラム
- 28 6学年次カリキュラム
- 29 医師国家試験に向けて
- 30 大学院医学研究科
- 31 国際交流
- 35 学修施設
- 37 キャンパスライフ
  - キャンパスカレンダー
- 38 キャンパスマップ
- 39 クラブ&サークル
- 41 エリアインフォメーション
- 43 マイキャンパスライフ
- 45 AMUトピックス
- 46 アクセス





理事長／学長メッセージ

## 未来をひらく 新しい医科大学を目指して

1972年に建学された愛知医科大学は、2022年に開学50周年を迎えます。1980年度に大学院医学研究科、2000年度に看護学部、2004年度には大学院看護学研究科が設置され、現在は2学部・2大学院研究科体制で教育・研究活動を進めています。これまでの医学部卒業生は4,318名で、そのうち4,276名(99.0%)が医師になっており、また看護学部の卒業生総数は1,797名で、全国の病院などで看護師・保健師として活躍しています。

本学のキャンパスは、名古屋市東部に隣接する長久手市にあります。2005年に開催された万博「愛・地球博」の会場となった地であり、緑豊かな自然が残る一方で近隣には多くの便民施設がそろうなど、「住みよさランキング」で毎年上位に位置づけられる地域です。学生生活を過ごす場所として、とても恵まれた環境にあると言えます。

愛知医科大学は「良き医療人を育てて地域社会に奉仕する」という建学の精神のもと、「社会から評価され、選ばれる医科大学」となることを目指して努力を積み重ねてきました。優れた指導スタッフによる充実した教育、臨床、研究活動に加え、ドクターヘリなど本学ならではの特色を打ち出す独自分野の構築にも積極的に取り組んできました。新しい大学病院の開院をはじめとする次代を見据えたキャンパスの再開発が2018年に完了し、さらなるステージアップを実現するべく、学内を挙げて積極的に学修環境の新たな再構築を進めているところです。

その際のキーワードとして掲げているのは、「自己実現」「独自性」「連携」です。世界を視野にこれからの医学界を担う人材を育てていくためには、個人、組織、全体の各レベルで理想が実現できる環境の充実と共に、独自性・独創性が発揮

できる環境づくりや、地域や各病院、学内や大学病院内、研究などあらゆる領域での連携・協力が必要になってきます。そのため、これまで本学が蓄積してきた大規模データを世界規模の連携研究に生かすといった計画が進められる一方で、地域医療との連携をこれまで以上に促進し、地域の医療活動のさらなる充実を図り、救急医療体制をより強化する新たなプロジェクトの充実も進んでいます。

現在の医学は大変なスピードで進化を続けると共に、医療を取り巻く環境も急激な変化を遂げ、先進医療の進化も驚くほどのスピードで進んでいます。そうした時代の変化を見据え、次世代の医療を支える人材を育てていくことをわたしたちの大切な使命として、未来をひらく充実した医学教育環境を構築していきたいと考えています。

理事長／学長 祖父江 元

副学長／医学部長メッセージ

## 時代の変化を見据えた 様々な取り組みを進めています

副学長／医学部長 若槻 明彦

医学教育の世界は現在、大きな変化の時代を迎えています。そうした中であって愛知医科大学では、時代の変化を見据えた新しい医学教育の拠点づくりのための様々な取り組みを積極的に進めてきました。

例えば、入学後すぐに「臨床実習入門」などの準備教育を行うと共に、臨床と基礎医学教育を結びつけるような垂直統合の授業を進めるなど、新しいスタイルでの医学教育の実施を進めています。また臨床実習のさらなる充実を図り、アクティブ・ラーニングなど学生自身が自ら意欲的に学んでいける機会を充実させることで、人間性豊かな「良き医療人」を育てる場づくりを実現してきました。

そうした充実した多様な取り組みを進めていく一方で、医学教育における国際基準の評価である「医学教育分野別評価(JACME)」を2019年に受審し、高い評価を受けました。その結果、国際

基準に適合する医学教育機関であると認定され、世界を舞台に活躍できる医療人を育成する医学教育機関として新たな学びのステージを築上げています。また、国際バカロレア資格での入学者選抜も導入することで、より世界に開かれた医学教育の場として新しい可能性を切りひらいていると言えます。

その一方で、本学が建学以来、大切に育んできた地域とのつながりをもとに「地域医療教育」の充実も進めています。また、看護学部とも連携した「多職種連携教育」の推進など、新しい時代のニーズに即した多様な取り組みにも力を注いできました。

医学・医療の力が、社会を支える大きな力であることが改めて認識されるようになった現在、世界を見つめ、地域に根ざす本学の医学教育は、これからの世界を支える大切な役割を果たしていくものと考えています。



沿革

- 1971●12.25 愛知医科大学(医学部医学科)設置認可
- 1972●4.11 医学部第1回入学式
- 1974●5.30 新附属病院使用許可
- 9.9 高等看護学院設置認可(1976.9.20 看護専門学校に改称)
- 1979●7.1 附属病院救命救急センター開設
- 1980●3.26 大学院医学研究科設置認可
- 1981●4.23 情報処理センター設置
- 1983●4.1 加齢医科学研究所設置
- 4.20 メディカルクリニック開設許可
- 12.21 附属動物実験施設設置(1988.4.1 動物実験センターに改称)
- 1987●10.1 運動療育センター設置
- 1988●4.1 視聴覚教材センター設置  
核医学センター設置  
研究機器センター設置  
分子医科学研究所設置
- 1993●6.16 産業保健科学センター設置
- 1999●12.22 看護学部看護学科設置認可
- 2001●6.16 薬毒物分析センター設置
- 2002●1.1 学際的痛みセンター設置
- 4.26 看護専門学校廃止認可
- 2003●11.27 大学院看護学研究科設置認可
- 2004●4.1 医学教育センター設置
- 2008●4.1 総合医学研究機構設置  
臨床試験センター設置  
看護実践研究センター設置
- 2010●4.1 総合医学研究機構を改組(動物実験センター、核医学センター、研究機器センター、臨床試験センターを同機構の部門として統合)
- 2012●1.4 長久手市市制施行に伴う  
本法人所在地地名番の変更(愛知県長久手市岩作雁又1番地1)
- 4.1 先端医学研究センター設置
- 2014●4.23 新病院(中央棟)使用許可
- 11.1 災害医療研究センター設置
- 2015●4.1 国際交流センター設置  
シミュレーションセンター設置
- 2016●4.1 先端医学研究センター廃止  
研究創出支援センター設置
- 2017●4.1 医学情報センター(図書館)廃止  
情報処理センター廃止  
総合学術情報センター設置



# 愛知医科大学の特色

カリキュラムから国際交流、大学病院まで、あらゆる面で教育環境の充実に力を注いでいます。

## 1 医学教育

### 人が中心の医学教育

愛知医科大学医学部では1972年の開学以来、高度で先進的な知識や技術の修得に留まらず、ヒューマンズミに徹することのできる「情緒と品格を備えた医師」の育成を目指しています。

## 初年次教育

### 医学生としての意欲を高める初年次教育

入学直後から解剖学の講義をはじめ、後学期からは生理学、生化学を開講。早期から医学の専門領域の学びを開始することで医学への関心や学修意欲を高めます。またシミュレーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習を順次実施し、医療人・医療のあり方を学びます。

⇒ P09



生物学 教授 武内 恒成

## 3 臨床教育

### 実践力を養う臨床教育を重視

4学年次の10月から「Student Doctor」として診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップA)を開始。より実習時間を増やすことで実践力を早期から養います。さらに「臨床実習入門」「基本手技・医療面接実習」といった準備教育も充実しています。

⇒ P07



## 4 学修環境

### 総合学術情報センターや医心館など学修環境が充実

総合学術情報センターには、図書館やマルチメディア教室などを設置。また、医心館や本館セミナー室には、グループ学習や個人学習ができるスペースを確保するなど、様々な面から学ぶ意欲をバックアップする施設・設備が整っています。

⇒ P35



## 5 研究サポート

### 学生の研究を積極的にサポート

愛知医科大学では、多くの学生が教員の指導を受けながら医学研究に積極的に取り組んでいます。研究成果を学会で発表する際には、大学から交通費などを補助する制度も導入しています。

⇒ P13



## 国際交流

### 7カ国9大学との国際交流

国際社会が求める医療改革への動きに的確に対応できる医師の育成を目指し、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国、ポーランド、イラン、ウクライナの7カ国9大学への留学を支援しています。国際交流センターでは、留学生との交流や異文化理解を目的としたセミナーなども開催しています。

⇒ P31



## 7 大学病院

### 総合的かつ高度な医療を学べる大学病院

愛知医科大学病院は、2014年に最新鋭の医療機器を導入した新病院を開院。中部地区屈指の大学病院として高度な医療を提供するとともに、学生にとって最先端の医療に触れられる学修の場として充実の教育環境を実現しています。

⇒ P15

## 8 ドクターヘリ

### 愛知県内で唯一ドクターヘリを配備

愛知医科大学病院の高度救命救急センターには、愛知県内では唯一のドクターヘリを配備。救急医療専門の医師や看護師が迅速に出動できる体制を整えています。

⇒ P16

## 卒業生

### 全国で活躍する4,200名以上の卒業生

開学以来、すでに4,200名以上の卒業生が全国で医師として活躍しています。地方出身者も多く、卒業後の同窓生同士の協力体制や地元医師会との関係が強固であることも愛知医科大学の魅力の一つです。

⇒ P12





## 実践力を養う臨床教育を重視

4学年次の10月から「Student Doctor」として診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップA）を開始。実際の医療の現場で、知識・技能・プロフェッショナリズムを修得します。

### Student Doctor

4学年次の8～9月に医療系大学間共用試験（CBT・OSCE）を実施。合格すると「Student Doctor」として認定。「Student Doctor」は、診療チームの一員として患者さんやご家族と直接触れ合いながら臨床実習を行います。



### 診療参加型臨床実習 （クリニカル・クラークシップA）

2017年度より、従来の見学型臨床実習（BSL）は診療参加型臨床実習（クリニカル・

クラークシップA（40週）へと変更。4学年次10月から全診療科で満遍なく臨床実習し、広い領域の基礎的経験を養います。

### 診療参加型臨床実習 （クリニカル・クラークシップB）

5学年次後学期からは、クリニカル・クラークシップB（32週）を実施。各4週間8カールの拡充した臨床実習を重要な診療科で行います。さらに深い知識と高い技能習得を目指した実習が可能になりました。

#### 学外実習

クリニカル・クラークシップBにおける学外実習では、本学の協定病院である学外42病院のほか、新たに地域に密着した中小病院での地域医療実習も可能になりました。海外ではアメリカ・南イリノイ大学（SIU）医学部やタイ・コンケン大学医学部、ポーランド・ウッチ

医科大学など、学術国際交流協定を締結している大学での臨床実習も可能で、実習単位を認定しています。多様な臨床現場を経験することで、医療人としての視野を広げられる機会を増やしました。



より充実した臨床教育を行うための準備教育や施設が整っています。

#### シミュレーションセンター



臨床技能の修得および向上を目的に、医学生ばかりでなく看護学生や研修医、スキルアップを目指す医師や看護師も利用できるシミュレーションセンターを開設。高機能の人体シミュレーターを用いた各種トレーニングや基本手技トレーニング、各診療科の協力を

よるOSCEに向けた実習など、実践的な教育の場として低学年次から高学年次まで積極的に活用しています。2019年6月には、従来の470㎡から700㎡へとスペースを拡大するなど、よりいっそうの充実を図っています。

#### コミュニケーション演習

主要な症候の診察に必要な知識を学修し、その内容を活かした模擬診察を実施。臨床の現場で求められる知識やコミュニケーション方法などを学びます。

#### 臨床実習入門

臨床実習を行うにあたって、診察の進め方やカルテの記載、患者さんへの説明など、臨床医学の基幹となるための診療技能を身につけます。

#### 基本手技・医療面接実習

診療参加型臨床実習の基礎となる、診療の基本的技術、態度を修得。シミュレーションセンターの充実により、さらに中身の濃い内容を実現しています。



#### Message

### 「自分自身で考えられる医師」の育成を目指して

内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科） 教授 伊藤 恭彦

本学部は2019年9月に世界医学教育連盟（WFME）による医学教育分野別認証を受審し、高い評価をいただきました。臨床教育においては「Student Doctor」として、従来の見学型ではなく、より実践力を重視した診療参加型の臨床実習（クリニカル・クラークシップ）を導入し、「患者さんに寄り添い、信頼される医師」の育成を目指しています。臨床現場での多様な経験を通して、ぜひ「自分自身で考察できる力」を身につけてほしいと思います。





# 初年次教育



プロフェッショナリズム1a(看護学部との合同授業)

## 医学生としての意欲を高める初年次教育

時代が求める医療人を育成するための「プロフェッショナリズム1a・1b」をはじめ、1学年次から医学生としての自覚やモチベーションを高める講義や実習を積極的に導入しています。

### プロフェッショナリズム

時代が求める医療人を育成するために、プロフェッショナリズム1a・1bを開講。「質の高い医療(保健・予防活動を含む)ができる医師」「コミュニケーション能力に優れた医師」「適切な意思決定のできる医師」「マネジメント能力に優れた医師」「地域社会のリーダーシップがとれる医師」の育成を目指しています。「プロフェッショナリズム」は、医師としての態度やモチベーションを高めるための科目として、4学年次まで段階的に開講しています。



新入生研修 伴 信太郎 特命教授(医学教育センター)

### プロフェッショナリズム1a(医療人入門)

自らが将来どのような医学生・医師になりたいかをイメージすることで、初年次から学ぶ意欲を高める「プロフェッショナリズム1a(医療人入門)」を開講。多彩なプログラムを通して「(1)知的な運用能力としてのスタディスキル」、「(2)円滑な人間関係やコミュニケーションのためのソーシャルスキル」、「(3)科学的な理解にもとづく自己の心身の健康保持のためのライフスキル」といった3つのスキルを修得できるよう取り組んでいます。

### プロフェッショナリズム1b

「プロフェッショナリズム1b」では、医師として必要となる多様な価値観や、診療に対する姿勢を理解するとともに、模擬患者さんへの医療面接、基本的な臨床の手技や知識を修得。シミュレーションセンターでの実習も

行うなど、より実践的に学べる機会を増やしました。さらに2018年度からは看護学部などと連携し、多職種との繋がりを学ぶIPE(Interprofessional Education)を導入。初年次から多職種連携について理解を深める授業も積極的に実施しています。

### 行動科学

医療人は単に病気をみるのではなく、「人を見ること」が大切です。「行動科学」では、心理学や神経科学、精神科学などの多様な分野を通して、人間の心や行動を科学的に理解する力を1学年次から身につけます。2学年次以降は、健康増進・疾病予防や、社会と医学の関係を考察するなど、社会医学的な観点から理解を深められるよう、より内容の充実を図っています。

1学年次から医療人・医療のあり方を学べる実習を順次実施しています。

### 1学年次

#### 早期体験実習

1学年次から臨床の現場を体験できるよう、多様な実習を導入しています。

#### 1a(シミュレーション実習・コミュニケーション演習1)

グループ学習を通して、コミュニケーションやチーム活動、能動的学修の意義や基礎を理解します。早期から医療現場を体験するにあたり、様々な人、場面でのコミュニケーションについて考え、医学生としてふさわしいコミュニケーション方法を身につけます。

#### 1b(看護体験実習)

病院は患者さんを中心にして、多数の医療スタッフが共同で仕事をしていることを理解し、多職種連携の病棟業務を体験することで、コミュニケーションの重要性、医師としての態度、今後必要な医学的知識・技能について確認します。



#### 1c(臨床科見学実習)

臨床診療科・臨床医の指導のもとに医療を行う上での連携の理解を深めます。臨床医の患者さんへの対応や診断、検査などを体験し、早期に医師としての思考・人間性・倫理観を身につける契機とします。

### 2学年次

#### 外来案内実習

初診や再診時に診療がどのように行われ、どのような受診に関わる手続きが行われているのかを、医療者ではなく患者さんの視点から学びます。将来、医師になった時に、患者さんの気持ちに寄り添えるよう、受診時の患者さんの思いについて学びます。



#### チーム医療実習

チーム医療の一員として参加し、医師や他職種の業務を体験。保健・医療・福祉・介護分野など患者さんに関わるすべての人々の

役割を理解し、相互の尊重のもとに適切な行動をとることの重要性を学びます。

#### 地域社会医学実習

障がい者の介護や救急医療の現場、働く人々の実態を体験することで、医師になる者としての自覚を高めるとともに、様々な人々の健康に関する悩みや苦しみを知り、地域社会における疾病予防、健康増進における医師の役割を理解します。

### 3学年次

#### 地域包括ケア実習

高齢者や在宅での介護が必要な人々の生活を知り、どのように支援すれば良いのかを知るために、老人保健施設や訪問看護ステーションなどの業務を体験します。患者さんや家族の思い、多職種の役割を学ぶことで、チーム医療の実際を理解します。

### 4学年次

#### 地域医療早期体験実習

大学病院以外の一般の地域医療機関において、どのような医療が実践されているのか、医師および医療スタッフの業務を体験。実習を通してクリニカル・クラークシップでの地域医療への準備をするとともに、地域医療への学修意欲向上の契機とします。

### Message

## 「人間」をみるという 大きな視点を身につけてください

衛生学講座 教授 鈴木 孝太

本学部は、医学とは何か、医師とはどんな仕事をするのか、社会の中でどんな役割があるのかなど、医療や医師について俯瞰できる科目が初年次から充実していることが大きな特長です。医師になるためには専門的な知識や技術の修得はもちろん大切ですが、その前に「人間」をみるという大きな視点を初年次からぜひ身につけてください。そして、「自分のためだけではなく、社会に貢献するために勉強する」という意識と姿勢で取り組んでほしいと思います。





医学教育の、一歩先へ。

# 実習Report



4日間の医療キャンプを終え、現地スタッフと共に

## ケニア地域医療実習(地域枠学生対象)

ケニアのHIV陽性患者診療関連施設や障がい児施設などで、患者および地域住民への医療提供、予防活動の実際を視察・体験します。社会的弱者や健康弱者への理解を深めることによって、地域医療、特に医療資源に恵まれない地域に住む人々にどのような医療活動が必要か、何を提供すれば地域社会が健康になるのかについての考察を深めます。さらに、学生ならではの視点から地域医療供給体制に対する新規の考察や提案がもたらされる可能性も期待されます。

### Report

## たくさんの貴重な経験ができました

4学年次 高野 梨佳 (京都府 京都市立堀川高校出身)

医療キャンプでは、日本ではまず見ないような様々な疾患を見られただけでなく、診療や検査も実際に行わせていただくなど、多くの貴重な経験ができました。またボランティアという面では、単にお金の支援だけが全てではないと痛感しました。資金援助はあくまで自立のための補助に過ぎず、その地域が自立できるようにすることこそがまさに支援なのだと思います。私も地域枠の学生として、近い将来、限られた人、環境、資金の中でより良い医療を提供しなければならないという面では同じような問題であり、それを実感できたことは、とても大きかったと思います。



臨床講義の知識をもとに診断推論



森の中にあるHIV陽性児の支援学校を訪問



臨床実習での経験を生かして実際に診療



アフリカのへき地の小さな診療所で  
私たちは住民のために何ができるのだろうか

### Report

## 次は医師として参加したい

6学年次 太田 真柚子 (愛知県 愛知淑徳高校出身)

私にとってこの10日間は充実した毎日で、初めて見るアフリカの病院や診療活動は新しいことをいつも気づかせてくれました。知識も技術も充分にない医学生である自分にとって、一番できることは誰よりも学んで帰ること、この経験を良い思い出だけにせず、未来に生かすことだと実感しました。そして実習での経験を通して母子保健に興味が湧き、途上国の医療にもさらに関心が強くなりました。毎日多くのことを考え、吸収したケニアでの日々は自分の視野をとても広げてくれたように感じます。今後、もっと知識と技術を身につけて、次は医師として参加したいと思っています。

医学教育の、一歩先へ。

# 医療の最前線で活躍する卒業生

## いろいろな可能性がある大学です

小松病院 小児科(大阪府寝屋川市)  
武輪 鈴子 (2002年卒業)

愛知医科大学での思い出の一つとして、4学年次に、交換留学制度で米国のアイオワ大学に1か月留学させていただいたことがあげられます。アイオワ大学の学生のお宅にホームステイし、大学病院やホームドクターのクリニックの見学などを行いました。海外の医療体制や医療事情は日本と異なる部分もたくさんあり、いろいろと考えさせられました。

留学中、アイオワ大学神経内科の日本人教授の研究室でお世話になった際、縁あって小児科の医師に出会い、小児医療により興味を持つようになりました。そうしたことから、卒業後は愛知医科大学と共に地域医療を支える公立陶生病院での2年間のスーパーローテート研修を経て、実家近くの大学の小児科に入局、現在は関連病院である小松病院小児科で常勤勤務しています。

学生時の留学がきっかけとなり、小児科医として勤務後、2015年3月末から6月までの3か月間、ベルギーのゲント大学病院小児科に夜尿症の勉強で留学させていただきました。未知の地に一緒についてくれた当時小学校3年の娘(3か月間インターナショナルスクールに通いました)、海外に留学することを快諾し応援してくれた愛知医科大学の同級生の夫(愛知医科大学眼科学講座に入局後、現在は



大阪  
OSAKA

個人病院の眼科勤務)に感謝しています。

愛知医科大学では現在、9大学との交換留学が準備されているとのことです。いろいろな出会い、可能性があり、経験をさせていただき、愛知医科大学で学べたことはとてもよかったです。ただの暗記だけでなく臨床に即した解剖学の授業や指導教員制度による手厚い指導、研究、私立ならではのきめ細かな国試対策、部活動や行事など良いところはたくさんあります。

ぜひ愛知医科大学に入学し、学んでください。そして、仕事も、家庭も、欲張って夢をかなえてください。

## 救命救急医として、“命”の運命を考える

～“命”～ あなたにとって何ですか？

愛知医科大学 医学教育センター  
愛知医科大学病院 高度救命救急センター/救命救急科  
講師 青木 瑠里 (2002年卒業)

世間知らずの私が医学部に入学して“命”を意識したのは、4学年次の時でした。残念ながらそれまで、あまり“生”や“死”を考えることがない、世間知らずの「おじょーちゃん」だったのだと今は思えます。日々ある人生を、命として感じたのは恥ずかしいことに「救急医学」講義を受けた時でした。講義をきっかけに、「医学」を意識し、臨床実習開始(当時は5学年次の半ばから)前に自ら臨床実習を希望し、病院に飛び込んだのです。すると、今まで見たことも聞いたこともない世界がそこには広がり、自分の世間知らずを知ることになりました。「必死で生きようとする命」「自ら死に飛び込む命」「自分の命がどうなっているかもわからなくなってしまっている命」など様々な命がそこに存在していました。その命を目の前に、多くの医療者がプロフェッショナルな意見を出し合い救おうとするその姿や行動に圧倒されました。さらにその仲間の一員に自分になれるのか不安でいっぱいになりました。私の行動が変わったのはその時でした。試験に受かるための勉強から、自分の知識を得るための勉強におのずとシフトしました。人は「目標」を見つけると強くなれます。真剣になれます。努力もできます。自分の弱点についても見つめるようになります。素直になること



愛知  
AICHI

だってできるんです。目標が定まったため、「救命救急医」となるという夢を持ち、頑張ってくることができました。そして、医師になってからも、多くの様々な“命”と出会い、喜怒哀楽を共にしたことで医師として成長させていただきました。多くの命が私の“命(心)”をも救ってくれたとも感じています。

皆さんも、「医学部」、「医師」を夢見てきっと愛知医科大学に興味を持ってきているのだと思います。でも、なぜ医学部なのか？なぜ医師なのか？をゆつくりと考えてみてください。6年間の勉強は結構大変です。乗り越えられるかは「目標」次第だと感じます。自分の“命”をどうしたいのか。目標を作ってみると、医学部受験にも熱が入ると思います。あなたの“命(心)”、燃やしてください!! 目標を持ったあなたの入学を待っています。



## TOPICS

### 愛知医科大学医学部学生が『骨学のすゝめ』を上梓

解剖学講座 教授 中野 隆

「学無止境」—学問には終止も境界も無い。これは、私の座右の銘であると同時に、解剖学講座の基本方針です。この度、本学医学部Medical Science Clubの学生が臨床解剖学の教科書『骨学のすゝめ』を上梓しましたので、ご紹介します。

本書は、基礎医学の中でも最初に学ぶ骨学について、如何にして能動的に学び、その知識を臨床医学の理解に結び付けるかを「医学部生の視点」で纏めた「能動学習のための道標(みちしるべ)」です。近年の臨床実習ではclinical clerkshipが重視され、学生は医療チームの一員として診療に参加します。同様に本書は、基礎医学から臨床医学、臨床実習へと進むにつれて、学生自らがその時々で解剖学を振り返りながらアイデアを持ち寄り、私たち解剖学講座教員とONE TEAMとなって築き上げました。解剖図譜だけではなくレントゲン写真などの画像も豊富に取り入れ、医学史的な話題も盛り込んでいます。

本書のプロジェクトは、2015年秋の日本解剖学会中部支部学術集会における学会発表で幕を開け、5年の歳月をかけました。その間、「学生による医学教育改革に向けた提言」を主題に本書のプロジェクトについて学会発表を行い、2016年春の第121回日本解剖学会全国学術集会において学生セッション優秀発表賞、翌年春の第122回日本解剖学会全国学術集会では献体協会賞トラベルアワードを受賞しました。

「学無止境」の精神は、我が教え子たちの手によって、『骨学のすゝめ』として見事に結実しました。ぜひ一度手に取ってご覧ください。



### 本書に込める私たち学生の想い —医学のすべては骨学から始まる—

皆さんは今、どのような思いで本書を手にとっているのでしょうか。私たちは本書を読み返すたびに、医学を学び始めた頃の思いに胸が熱くなります。私たちも皆さんと同じように、いよいよ医学のスタートラインに立ったことに胸躍させたものです。

解剖学、とくに骨学は、医療の道に進む全ての人が最初に学ぶ分野です。記号や方角を知らないと地図を読めないように、解剖学が判っていないと臨床医学の世界で道に迷ってしまいます。その学習過程において、最も貴重な場が骨学実習です。かつて私たちは、初めて真骨に触れてはその質感に感銘を受け、骨同士を組み合わせてはその巧緻な仕組みに驚嘆しました。近年、医学は飛躍的に進歩しており、私たちが身に付けるべき知識は日々増え続けています。しかし、医学教育は臨床実習重視へと改革が進み、基礎医学に充てられる時間は減少傾向にあります。このため、多くの学生が膨大な解剖学用語の暗記に終始し、解剖学の機能的および臨床的意義を軽視しがちです。

どこが初学者にとって理解しにくい部分か、何が臨床医学において重要な部分かは、臨床医学を学んだばかりの私たち医学生だからこそ判ることです。私たち医学生をの視点を生かすことで、医学のスタートラインに立った

皆さんを導く教科書を作ることができるのではないかと考えました。そこで、骨学を学ぶ上で重要な3つの柱を掲げ、本書を作成しました。

①頭、頸、結節など共通の部位名を押さえ、各論に結び付ける「総論」。  
②実際に骨に触れ、骨を組み合わせ、機能的意義を理解させる「MISSION」。

③骨の形態や関節の機能から骨折や脱臼のメカニズムを考え、臨床的意義の理解へと発展させる「臨床問題を考えよう」。

これら3つの柱により、限られた学習時間の中で能動的に骨学を学び、その知識を臨床医学の理解へ繋げることが出来るのではないかと考えています。換言すれば、知識を「知っている」から「使える」へと発展させ、私たちが得た感動を共有できることを祈っております。

幸いにも私たちは、中野隆教授を始めとする愛知医科大学医学部解剖学講座からの多大なご支援、ご指導があり、本書の作成に携わることが出来ました。末筆になりますが、この場を借りて御礼申し上げます。

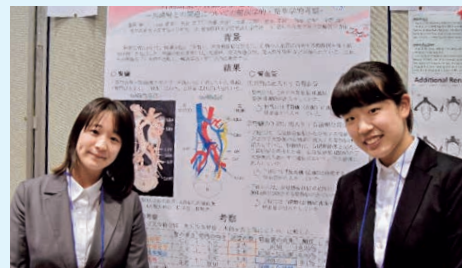
2020年1月吉日

愛知医科大学医学部Medical Science Club

蓬萊 春日(2019年3月卒業)、古屋 佑夏、中山 幹都、花林 卓哉、關 栄茂、山田 崇義



学会における口演発表



学会におけるポスター発表



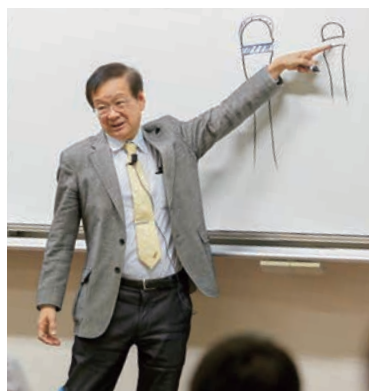
日本解剖学会において献体協会賞と  
学生セッション優秀発表賞をダブル受賞



「骨学のすゝめ」を上梓したMedical Science Clubの学生



## 学生の研究を積極的にサポートしています



解剖学講座 教授 中野 隆

### 本学学生は優れた 研究業績を挙げています

本講座では、1学年次から6学年次までの多くの学生が研究に励んでいます。その内容は特定の分野に留まることなく、肉眼解剖学、臨床解剖学、動物実験による分子生物学的研究など多岐にわたります。日本解剖学会や臨床解剖研究会において毎年学会発表を行い、医学雑誌に英文論文を発表するなど、本学学生による研究は学術的に高く評価されています。

#### 学生が発表した英文論文

- ▶ Mitsuoka H et al.: Histological study on the left common iliac vein spur. *Annals Vascular Disease* 7:261-265, 2014
- ▶ Takeuchi H, Takeda Y et al.: A rare congenital extrahepatic portosystemic shunt affecting the inferior mesenteric vein, inferior vena cava, and left ovarian vein. *Surgical Radiologic Anatomy* 36:729-732, 2014
- ▶ Horai K, Furuya Y et al.: A case of pancake kidney with a single ureter in the retroperitoneal space. *Anatomical Science International* 93:563-565, 2018

#### 近年の主な受賞例

学生の学会における受賞は、10回以上になります。2017年の日本解剖学会総会・全国学術集会では、「献体協会賞」と「学生セッション優秀発表賞」を受賞しました。ダブル受賞は、全国でも本学だけです。また、「献体協会賞」は37歳以下の若手研究者を対象とするもので、学生が受賞するのは異例のことですが、本学では3回目になります。

▶ 第114回日本解剖学会総会・全国学術集会(2009年)学生セッション最優秀賞 ▶ 第14回臨床解剖研究会(2010年)優秀賞 ▶ 第52回日本脈管学会(2011年)優秀賞 ▶ 第117回日本解剖学会総会・全国学術集会(2012年)献体協会賞(2演題) ▶ 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会(2014年)献体協会賞 ▶ 第121回日本解剖学会総会・全国学術集会(2016年)優秀発表賞 ▶ 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(2017年)学生セッション優秀発表賞、献体協会賞

### 学生の研究活動を奨励する 制度があります

本学では、学生が学会発表を行う際は、大学から交通費や宿泊費が全額支給されます。これは、「学生の研究活動を奨励する」本学の特徴的な制度です。また、研究内容が優秀であると学会が認めた、あるいは英文による学術論文を発表したなどの優れた研究業績を挙げた場合、大学から表彰されます。





## 大学病院の特色

愛知医科大学病院は、2014年5月に最新鋭の医療機器を導入した新病院を開院。従来病棟と合わせて35の診療科および中央診療部などを有する、ベッド数900床の中部地区屈指の大学病院として、総合的かつ高度な医療を提供しています。大学病院は医学生にとって診察・手術の見学や症例検討などを行う大切な学修の場であり、充実した教育環境を実現しています。さらに大学卒業後の臨床研修では卒後臨床研修センターが核となり、研修医の育成・教育を、病院スタッフが総合的にサポートしています。

## 総合的かつ高度な医療を提供しています

### 高度救命救急センター

本センターの役割は、関連医療機関との密接な連携によって一次・二次救急医療機関をバックアップする三次救急医療施設として、地域の重症患者に対して救急医療を提供することにあります。センター開設は1979年。他の医科大学・医学部に先駆けて設置し、地域に貢献してきました。1996年には、中部地区で初めて「指肢切断」「急性中毒」「広範囲熱傷」など特定の救急疾患に対して専門的

に治療を施すことができる「高度救命救急センター」として認定され、1998年には、三次救急専用の救急蘇生外傷治療室の増設、画像診断装置の増設を行いました。また2002年からはドクターヘリ事業も開始。さらに2006年には基幹災害拠点病院に、2011年には救急告示医療機関の指定を受けるなど、ますます充実した内容のセンターとして地域の期待がさらに高まっています。

### ドクターヘリ

高度救命救急センターに、救急医療対応（ER）型ヘリコプターが常時待機し、主に消防機関からの要請を受けて、救急医療専門の医師・看護師が迅速に出動できる体制を整えています。現在の活動範囲は、愛知医科大学病院から半径70km圏内が中心ですが、大災害発生時にはヘリコプターの機動性を如何なく発揮できるよう隣接各県（岐阜・三重・静岡・長野）のドクターヘリとも連携を図りながら、即応可能な体制を構築することとしています。

## より充実した教育環境を実現しています

### 多臓器疾患に対応できる、総合的な診療力を育成

超高齢社会においては、ひとりで多くの病気を抱えた高齢者が急増し、従来の臓器別・疾患別に特化した高度医療だけでは対応が困難になってきます。そのため、今後は多臓器にわたる複合疾患に対し、いかに適切な医療を提供していくかについて大学教育の段階から学ぶ必要があります。愛知医科大学病院ではプライマリケアセンターなどにより、臓器別・疾患別の枠を超えた総合的な視点を持つ総合診療医の育成に積極的に取り組んでいます。

### 一次から三次救急まで、幅広い診断能力を修得

愛知県内で唯一の高度救命救急センターでありドクターヘリの基地病院でもある愛知医科大学病院は、より重篤な救急患者さんへの対応力が身につくとともに、一次・二次救急を担うプライマリケアセンターが拡大整備されることで、一次から三次救急まで幅広い疾患についても学べます。さらに、近年注目されつつある放射性医薬品による治療と診断に最適な「半導体SPECT-CT装置」を東海地区で初めて導入。高度急性期医療を担う特定機能病院として専門分野を深く学べることはもちろん、広範な診断能力を修得できる環境が整っています。

### 高い効果を生み出す、教育用電子カルテ

大学病院では医師が入力する各科専用電子カルテを教育システムとしても活用できるよう整備を進めています。これが本格的に稼働すると本学の医学生、看護学生、研修医は専門医の診療経過を後追いし、典型的な疾患の診療内容について学ぶことができるようになります。さらに特殊な疾患を含む様々な症例に対する専門医の思考過程の記録は、貴重な診断ガイドとして高い教育効果を生み出すことが期待されています。





# わたしの、一步先へ。

目指す「医師像」や目指す「医療のあり方」について、  
在学生から研修医、医療の最前線で活躍する医師まで、幅広い方々に聞きました。



医療は大都市に住む人にも、過疎地域に住む人にも、  
同じレベルで提供されなければならないと考えています。  
将来は自ら医師不足に悩む過疎地域に赴き、  
質の高い医療を提供するとともに、  
患者さんの心に寄り添える医師になりたいです。

2学年次 大谷 太暉(愛知県 向陽高校出身)

癌は患者さんごとに異なる遺伝子が  
傷つき発生する病気ですが、その全貌は未解明です。  
そこで、患者さんごとに癌を個別化し、  
研究室で適切な治療法を開発し、  
その成果を1日も早く患者さんに還元できるよう、  
基礎研究に取り組んでいます。

病理学講座 教授 笠井 謙次



大学病院の先生にお願いして、  
手術や教授回診を見学させていただきました。  
その経験が大学で勉強する意欲になっています。  
先生方との距離が近く、  
早くから実際の医療を身近に感じられることが  
愛知医科大学の良いところだと思います。  
将来は患者さんの心に寄り添った  
医療を提供できる医師になりたいです。

4学年次 北澤 秀平(愛知県 時習館高校出身)



患者さんに寄り添い、  
安心感を与えたい、  
そういう思いで臨床実習に  
取り組んでいます。  
病気を治すだけでなく、  
その人の社会的背景も考えられる  
医師になりたいと思っています。

6学年次 越路 崇玄(岐阜県 大垣北高校出身)



患者さんは、病気や不安を抱えて病院を訪れます。  
謙虚に耳を傾け、愚直に最善を尽くす、  
そのために学び続ける。  
これが臨床医です。

医療が高度に専門化しても、  
「心に寄り添う医療」の大切さは変わりません。

内科学講座(血液内科) 教授 高見 昭良



現在、初期臨床研修医として  
大学病院で経験を積み重ねています。  
将来、全身管理を的確に行える産婦人科医になるため、  
2年間の臨床研修では、様々な診療科で様々な疾患を経験し、  
日々勉強の毎日を過ごしています。

愛知医科大学 卒後臨床研修センター  
臨床研修医 森下 優史(2019年卒業)



限られた時間の中で一人ひとりの患者さんに対して  
適切な診断、治療をするために、  
患者さんが話しやすい状況を作り出すことができ、  
患者さんに対して共感と傾聴の  
姿勢を忘れない医師になりたいと考えています。

6学年次 新武 諒亮(京都府 洛星高校出身)





# 教育カリキュラム

時代が求める良医の育成に取り組んでいます



## 医学部の教育理念

本学医学部の教育理念は、医学知識や技術の修得はもとより、医学を志す者として教養豊かな人間性を涵養することです。すなわち、建学の精神及び学是に基づいた科学的・倫理的判断

力、社会貢献の自覚を養い、情緒と品格を兼ね備えた医療人を育成することです。

## カリキュラム・ポリシー〔抜粋〕

医師に求められる知識・技能・態度を、段階的、スムーズに修得できるように講義および医療実習・臨床実習を1学年次から6学年次まで継続的、かつ、らせん状の学修方法にて積み重ねていきます。学修内容が真の効果的な学びとなるように講義は単なる一方向性の座学ではなく、教員との双方向性のやりとり、学生間の意見交換・議論などのアクティブ・ラーニングを6年間通して行います。また、6年間継続する医療実習および臨床実習では、常に、事前

学習、実地体験、体験の振り返りのまとめとプレゼンテーションを行い、経験からの学びを深め、確実にそれらを身につけられるようにします。

これらによって修得された学びは、医学的知識を評価する試験だけではなく、シミュレーションを使った技能の評価、振り返り記述や多職種を含めた多方面からの態度評価など、多面的・複合的な方法によって学修成果の達成度を明らかにします。

## 教育目標

本学医学部は、ヒューマンズムに徹し、医学・医療の社会的使命を進んで果たす医師を養成することを教育目標としています。現代社会は、医学の研究に豊かな思考力と創造性を発揮し、常に医学の進歩に対応しつつ、最新の知識、技能および態度を身につけることのできる医師又は医学者を求めています。本学医学部では、これらの要請に的確に対応するため、3つの教育目標を掲げています。

1. 将来の医学・医療の様々な分野に共通して必要な基本的知識、技能、態度を身につけ、生涯にわたる学修の基礎をつくります。
2. 自主性・創造性を身につけ、問題解決能力を高めます。そして、医学の進歩と、医療をめぐる社会情勢の変化に対応できる能力を涵養します。
3. 医療を予防・診断・治療から社会復帰までの包括的なものとして捉え、自然科学のみならず、その背景にある心理的・社会的諸問題をも含めて総合的に対応できる能力を涵養します。

## カリキュラムの特徴

本学医学部は、時代の要請に即した授業科目を取り入れ、6年間の一貫教育としてカリキュラムを編成しています。

低学年においては、一部の授業科目で少人数教育を取り入れて教員と学生との全人的接触を図っています。このことは、学生のコミュニケーション能力や問題解決能力を高めるとともに、自主性を伸ばすことにつながっています。

医学部では講義や実習を通じて、基礎医学から臨床医学まで幅広い分野にわたって知識を身につけることが求められます。将来医師として活躍するためには、知識だけではなく、実習を通じて医療従事者としての責任ある態度や価値観を身につけることが大切です。

このため、1学年次では本学大学病院での早期体験実習（シミュ

レーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習）、2学年次では心身障がい者施設等での実習、3学年次では老人保健施設等での実習、4学年次では学外医療機関での地域医療早期体験実習を取り入れております。

また、1学年次において専門科目の解剖学、生理学、生化学を開講しています。このことは、医学生としての自覚と学習意欲を早い時期から高めることにつながっています。

モデル・コア・カリキュラムに対応した教育カリキュラムとなっており、臨床医学系科目では統合型の講義が行われています。

臨床実習では、近隣の医療機関の協力を得て、診療参加型のクリニカル・クラークシップも取り入れています。

## ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学医学部では、建学の精神に基づき、新時代の医学知識と技術を身につけて科学的・倫理的判断能力および情緒と品格を兼ね備えた教養豊かな人間性を培い、地域社会に奉仕できる医師の養成を目指します。カリキュラム・ポリシーに沿ったカリ

キュラムを履修し、卒業時能力達成基準（コンピテンス、コンピテンシー）に定める項目を身につけた学生に卒業を認定し、学士（医学）の学位を授与します。



# 愛知医科大学の6年間

## 良医になるための学びのステップ

医師という職業は、生涯にわたって自ら学ぶ姿勢が求められます。

自ら問題を発見して自ら問題を解決する能力を高めるため、少人数のグループに分かれて、与えられた課題について調査・討論を重ねるチュートリアル教育を取り入れています。

また、信頼される医師になるには、何よりも患者さんと医療スタッフと良好なコミュニケーションを築く能力が必要です。

そのため、1学年次からコミュニケーション能力を高める教育を行っています。

1 学年次

2 学年次

3 学年次

4 学年次

共用試験(CBT,OSCE)

5 学年次

6 学年次

総合試験  
Post-CC OSCE

卒業 → 医師国家試験 → 臨床研修

**1** 学年次は、人文・社会科学、自然科学、外国語などの科目を学び、幅広い教養を身につけるとともに、医学を学ぶための基礎を培います。少人数で行われる初年次医科学セミナーでは、各自が興味のある分野を選択し、演習・実験・実習を通して学びの技法(アカデミックスキル)を身につけます。プロフェッショナルizm1aでは、時代が求める「医療人」となるために、自分が将来どのような医学生・医師となるかをイメージし、本学で学ぶ意欲を高め、さらに知的運用能力としてのスタディスキル、円滑な人間関係のためのソーシャルスキル、また自己の心身の健康増進、疾病予防など日常生活のためのライフスキルを学修します。

プロフェッショナルizm1bでは、医師として社会の多様なニーズに対応できるようになるのみならず、多様なキャリアパスを展望できるようになるために、「医師として求められる基本的な資質・能力」である『プロフェッショナルizm』、『医学知識と問題対応能力』、『診療技能と患者ケア』、『コミュニケーション能力』、『チーム医療の実践』、『医療の質と安全の管理』、『社会における医療の実践』、『科学的探究心』、『生涯にわたって共に学ぶ姿勢』などについて概要を理解し、様々な医療専門職と議論をしながら学修します。早期に臨床現場を体験するために、早期体験実習としてシミュレーション実習・コミュニケーション演習1、看護体験実習、臨床科見学実習を行います。1学年次のうちから、解剖学、生理学、生化学など基礎医学系の科目を取り入れています。

**2** 学年次では、本格的に基礎医学系の科目が開講され、高学年次で学ぶ臨床医学と有機的に結びつく統合講義を取り入れ基本的知識を学修します。疾病の性状や病因について学ぶ病理学、薬物の作用とその生体反応について学ぶ薬理学を学修します。プロフェッショナルizm2では、医療面接に必要な基本的スキル、医学の各領域の代表的疾患の基本的病態・治療法、医療を行う上で関与している職種とその役割、チーム医療における医師の果たす役割、医師に求められる倫理規範などを学びます。社会的存在としての患者、患者をケアする医療チームのあり方を体験する地域社会医学実習、チーム医療実習および外来案内実習を行っています。

**3** 学年次では、疫学、環境衛生、労働衛生といった各分野における社会と医学のかかわりを学ぶ公衆衛生学や衛生学などの社会医学を学修します。さらに、本格的に臨床医学の講義が展開されます。検査医学、症候学を学び、臓器別に内科・外科を学びます。時代の要請に即した東洋医学、高齢医学、医療安全といった科目も開講されます。また、老人保健施設などの学外での体験実習を通して、高齢者の介護を体験し医療と介護の連携について理解を深めるとともに、医学生としての自覚を深めます。

**4** 学年次では、さらに医学知識を深めるため多く臨床医学の講義が行われます。地域医療総合医学では、地域医療実践のための総合診療、プライマリ・ケアおよび地域包括ケアについて学び、近隣の医院においてプライマリ・ケアの実際を見学します。基本手技・医療面接実習、臨床実習入門では、クリニカル・クラークシップに進むための基本的な技能・態度を修得します。8月～9月に実施される医療系大学間共用試験(CBT,OSCE)に合格した者には、10月の白衣式で「Student Doctor」の称号が与えられ、クリニカル・クラークシップが始まります。



シミュレーターを使った基本手技・医療面接実習

POINT

- 早期体験実習、専門科目(解剖学、生理学、生化学)を1学年次から取り入れている。
- 時代の要請に即した授業科目を取り入れている。
- プライマリ・ケアを始め幅広い領域に対応できる臨床実習を行っている。
- グループワークやプレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを取り入れている。
- 診療参加型臨床実習を行っている。

**5** 5学年次は、4学年次から引き続き大学病院で診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)を行います。実際に患者さんに接して、医師にふさわしい態度や技術を身につけます。11月以降は選択制のクリニカル・クラークシップになります。また、自己の学修レベルをチェックするため、医師国家試験形式による総合試験が年3回実施されます。

**6** 6学年次では、5学年次から引き続き選択制のクリニカル・クラークシップを行い、学外の病院での臨床実習も行います。また、医師国家試験対策として模擬試験や集中講義を取り入れています。卒業を認定するために、医学の知識を問う総合試験、臨床の技能・態度を問うPost-CC OSCEを実施します。



**愛** 知医科大学病院では2年間、学内のみで研修を行うプログラム、2年目に20週間を市中病院で研修するプログラム、小児科または産婦人科の専門診療に特化したプログラムのうち、いずれかを選択できます。

当院は、大学病院としての高度な専門医療ばかりでなく、名古屋市北東部に隣接する市町村の地域医療から広域にわたる三次救急をも担っているため、あらゆる分野の一次、二次救急症例を始め、一例報告に値する貴重な症例まで幅広く経験できる環境が整っています。当直体制は、研修医1年目を研修医2年目が、研修医2年目を専修医が、そして専修医を指導当直医が指導する屋根瓦方式を採用しており、全ての救急患者を複数で診察する体制となっています。卒後臨床研修センターではセンター長および専任教員を始めスタッフ一同がメンターの役割を担っており、安心・安全な研修のみならず、生活面も含めたキャリア形成支援を行っています。



### 新カリキュラムと共用試験

医学部では、医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応したカリキュラムを採用。医療人となるための基礎を学ぶプロフェッショナルizm、自主学習法の体得、問題解決能力の養成を旨としたアクティブ・ラーニングを開講。初年次から基礎医学を取り入れ、臨床実習は4・5・6学年次を実施。

また、診療科を選択したり、学外の病院での臨床実習も取り入れて診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)を充実させています。臨床実習を受けるためには、臨床実習開始前に全国の医科大学・大学医学部の学生を対象に行われる共用試験に合格する必要があります。共用試験には、コンピュータを用いた知識・問題解決能力を評価する客観試験(CBT)と態度・診察技能を評価する客観的臨床能力試験(OSCE)があり、4学年次を実施しています。



### 臨床研修後の後期研修プログラム

日本専門医機構により、内科や外科を始めとする19診療科が基本診療領域に位置付けられました。当院も専門医資格の取得を前提とした専門研修プログラムを設置し、専門医制度に対応しています。さらに次の段階として、専門医取得者はSubspecialtyの学会専門認定を目指すことも可能です。

また、臨床医としての経験を積みながら大学院コースを履修し、博士の学位を取得する「社会人大学院」も設定しています。なお、臨床系女性教員の特別短時間勤務の実施や保育所の開設、病児保育対応の実施など働きやすい環境が整備され、大学全体として専門医の育成をバックアップしています。





## 1 学年次 カリキュラム

幅広い教養を身につけるとともに  
医学を学ぶための基礎を養う



### これから始まる様々な学びに とてもわくわくしています

1 学年次 高木 晃仲（愛知県 名古屋高校出身）

両親や親戚に医師が多かったこともあり、小さい頃から医学について漠然とした興味を持っていました。中学生のときに父の仕事場に行った際、間近で治療する姿を見て自分も医師になろうと決意しました。愛知医科大学を志望したのは、最先端の設備が整っていることや他の大学では間近で見られないドクターヘリがあること、そして地域に根差した医療を目指す上で最適であると考えたからです。また学生と先生方との関係が深いなど、学びの雰囲気に魅力を感じたことも決め手の一つになりました。これから医学についてたくさんのことを学習できると思うと、とてもわくわくします。医学以外でも、物理や化学など高校の範囲以上の内容をより深く学べることに興味があります。さらに、愛知医科大学では留学制度もあり英語学習も充実していると聞いたので、英語は今後も怠ることなく勉強していきたいと思っています。

#### Curriculum

|                 |                             |                                       |                    |
|-----------------|-----------------------------|---------------------------------------|--------------------|
| ■プロフェッショナルリズム1a | ■細胞生物学                      | ■初年次医科学セミナー                           | ■早期体験実習1b(看護体験実習)  |
| ■プロフェッショナルリズム1b | ■物理学実験                      | ■自然科学演習                               | ■早期体験実習1c(臨床科見学実習) |
| ■アカデミックリテラシー    | ■化学実験                       | 〈物理学、化学、生命科学・生物学から1つ選択〉               | ----               |
| ■医療のための情報学      | ■細胞生物学実習                    | ■スキルアップ演習                             | ----               |
| ■医用心理学          | ----                        | ■リベラルアーツ                              | ■解剖学1a             |
| ■行動科学1a         | ■医学英語1a                     | 〈哲学と医療、経済と医療、文学と医療、法学と医療、宗教と医療から2つ選択〉 | ■解剖学1b             |
| ■行動科学1b         | ■医学英語1b                     | ----                                  | ----               |
| ■医療のための数学       | ----                        | ■生命倫理                                 | ■生理学1              |
| ■スポーツ科学         | ■第2外国語                      | ----                                  | ----               |
| ----            | 〈ポルトガル語・中国語・韓国語・ドイツ語から1つ選択〉 | ■早期体験実習1a                             | ■生化学1              |
| ■医用物理学          | ----                        | (シミュレーション実習・コミュニケーション演習1)             | ----               |
| ■生体分子の化学        | ----                        |                                       | ■選択講座1             |

#### Pick Up Curriculum

■プロフェッショナルリズム1a・1b  
医師として社会に貢献するためには、社会が求める医学的知識・技術のみならず態度・価値観も修得しなければなりません。また、医学生が6年間の医学を修めるにあたり、医師となるための自覚や心構え、ライフスキルを身につけ、自己学習の習慣の確立を目指しています。医師としての心構え、多職種連携、医療倫理について学修し、医師という職業について学びます。

■初年次医科学セミナー  
教員がチューターとなり、学生は少人数の学習グループに分かれて学修し、大学における自己学習のための学習法を自ら体験することで協調性を養います。また、自ら問題を発見し、学修し、解決する能力をトレーニングすることにより、大学生としての自己学習の能力を修得します。

■解剖学1a・1b  
「医学知識と科学的探求」のため、生体の正常な構造や機能を理解し、

疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学知識を学びます。また、実習を通して『コミュニケーション』と『プロフェッショナルリズム』を修得します。「次世代の医学のため無報酬で自らの身体を提供する」献体の精神に学び、医の倫理を身につけます。人体の構造の美しさ、精巧さ、多様性を学び、医療人としての観察眼を養います。「学問には終止も境界もない」一学無止境の精神に学び、医学の奥深さを知ることになります。

■生化学1  
「医学知識と科学的探究心」の理解のため、生化学の基礎である生体の代謝学を学び、そのことによって、疾病の病因と病態・治療につながる基礎医学的な要素の理解・説明にもつながっていきます。生化学の講義・実習で得た知識を基にして、将来診療で経験した病態の解析につながる学修を行います。疾患を含む全ての生命現象は基本物質の相互作用と代謝の上に成立していることを学びます。

## 2 学年次 カリキュラム

高学年次で学ぶ臨床医学に  
備えるための基本知識を修得する



### バイリンガルであることを 生かせる医師になりたい

2 学年次 高柳 志津子  
(愛知県 名古屋国際学園インターナショナルスクール出身)

医学部を目指した動機は、幼少期にお世話になった方が心の病気で苦しんでいる姿を見て、力になりたいと思ったからです。また数年前まではインターナショナルスクールから日本の医学部へ進学することができなかったのですが、愛知医科大学が国際バカロレア入試（※現:国際バカロレア選抜）という道を作ってくださったため、そのチャンスを掴むことにしました。これまでで一番興味が湧いた授業は生理学です。人体の機能やメカニズムを学んでいくことは面白く、学べば学ぶほど人間の体に関心を持つようになりました。早期体験実習では、1学年次のうちから実際の医療現場を経験し、患者さんと接する機会もあったので、卒業後の自分の姿を想像することができました。長期的な目標はまだ決めていませんが、バイリンガルであることを生かせるような医師を目指したいと思っています。

#### Curriculum

|                |          |              |              |
|----------------|----------|--------------|--------------|
| ■プロフェッショナルリズム2 | ■生化学2    | ■統合講義(腫瘍学)   | ■地域社会医学実習    |
| ----           | ■生化学実習   | ■統合講義(炎症学)   | ----         |
| ■行動科学2         | ----     | ----         | ■チーム医療実習     |
| ----           | ■薬理学     | ■微生物学・基礎感染症学 | ----         |
| ■医学英語2         | ■薬理学実習   | ■微生物学実習      | ■外来案内実習      |
| ----           | ----     | ----         | ----         |
| ■分子発生学         | ■分子病態学   | ■免疫学         | ■コミュニケーション実習 |
| ----           | ----     | ■免疫学実習       | ----         |
| ■解剖学2(解剖実習)    | ■病理学(総論) | ----         | ■選択講座2       |
| ----           | ■病理学(各論) | ■寄生虫学        | ----         |
| ■生理学2          | ■病理学実習   | ■寄生虫学実習      |              |
| ■生理学実習         | ----     | ----         |              |

#### Pick Up Curriculum

■プロフェッショナルリズム2  
医師として社会の多様なニーズに対応できるようになるのみならず、多様なキャリアパスを展望できるようになるために、「医師として求められる基本的な資質・能力」である「プロフェッショナルリズム」、「医学知識と問題対応能力」、「診療技能と患者ケア」、「コミュニケーション能力」、「チーム医療の実践」、「医療の質と安全の管理」、「社会における医療の実践」、「科学的探究心」、「生涯にわたって共に学ぶ姿勢」についての理解を深め、医療専門職ならび医療専門職以外の有識者と議論をしながら学修を進めます。

■生理学2  
人体各種組織や器官、および器官系の正常機能、ならびにそれらの相互作用による生体協同や恒常性を理解し、疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を理解します。

生理学は生命現象を機能から追究する学問であって、論理的な思考・モデル

にもとづいて生命現象を理解・推論する分野です。各臓器系に特徴的な生理調節機構を理解し、恒常性維持機構の破綻から疾病へ至るしくみを理解する。さらに、病態下での生理現象についての理解を進めます。

■統合講義(腫瘍学)  
医学知識と科学的探究心の理解のため、特に腫瘍の病因、病態につながる基礎医学的な要素、社会医学的背景を学び、さらに腫瘍の症候と適切な治療選択の概要、チーム医療を理解します。腫瘍の基礎医学、社会医学から臨床医学までを俯瞰的に理解します。

■チーム医療実習  
「プロフェッショナルリズム:チーム医療」「コミュニケーション」を理解するために、チーム医療にその一員として参加し、医師の役割や他職種の役割を体験します。保健・医療・福祉・介護及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、相互の尊重のもとに適切な行動をとることを学びます。



生理学2



## 3学年次 カリキュラム

基礎医学の修得とともに  
臨床実習がスタート



### 経験を積み重ねて 救急科専門医を目指したい

3学年次 小島 克司（神奈川県 逗子開成高校出身）

これまでの学びで特に印象に残ったのは解剖実習です。1学年次から解剖学の講義が始まり、そのときには先輩の解剖実習を見学することもできました。そして2学年次には自分自身が実際にご遺体を解剖することによって、講義で学んだ知識をさらに深めることができました。また地域社会医学実習では、瀬戸消防本部に見学に行きました。実際に救急車に同乗して救急隊の活動を見せていただいたり、司令室での指令の様子を見せていただいたり、沢山の学びを経験することができました。3学年次からは臨床科目が始まり、覚えることが急増して本当に大変ですが、一步一步着実に進んでいきたいと思っています。もちろん、これまでに学んだ基礎医学の知識も忘れず復習していきたいです。さらに今年度は部活動の内務代表も務めるので、勉強と部活動を両立して頑張っていきたいと思っています。

#### Curriculum

|                |            |                      |              |               |
|----------------|------------|----------------------|--------------|---------------|
| ■プロフェッショナルリズム3 | ■健康増進と疾病予防 | ■呼吸器・アレルギー学          | ■小児科学        | ■疼痛医療学        |
| ■医学英語3         | ■地域包括ケア実習  | ■内分泌・代謝・糖尿病学         | ■整形外科学       | ■医療安全         |
| ■基礎医学セミナー      | ■EBM       | ■脳・神経学(神経内科学、脳神経外科学) | ■泌尿器科学       | ■東洋医学         |
| ■衛生学           | ■検査医学      | ■腎・膠原病学              | ■産科学         | ■高齢医学         |
| ■公衆衛生学         | ■消化器学      | ■血液・造血器学             | ■婦人科学        | ■症候学          |
| ■公衆衛生学実習       | ■循環器学      | ■精神科学                | ■放射線医学       | ■コミュニケーション演習3 |
| ■法医学           |            |                      | ■リハビリテーション医学 | ■選択講座3        |

#### Pick Up Curriculum

**■地域包括ケア実習**  
医師としての価値観・態度・姿勢を、実習施設の利用者や患者、その家族から醸成し、他職種の考えや役割を学ぶことで、チーム医療の実践を理解します。さらに、患者・家族医療チームメンバー・住民・社会との良好な関係を構築できること、プライマリ・ケアや、介護/ケアを含む様々な視点からの患者ケアの実践ができること、そして最終的に地域包括ケアの実践に参加できることを目指します。

**■衛生学**  
特に産業保健、環境保健、母子保健、食品衛生、精神保健分野について、人の健康行動につながる要因について理解し、さらに、疾病・障害・健康問題と社会との関係や、社会における医療問題を説明できることを目指します。地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できることを目標としています。健康や疾病が、生活・労働・教育の場での諸活動や地域環境、地球環

境と密接な関連を持っていることを具体的に学びます。医師は、疾病を治療するという働きのみではなく、人々がいきいきと生活できるよう、専門的な知識・技術を基盤とし、社会的諸関係に働きかけることを通じて職能を果たすべきことを学びます。

**■基礎医学セミナー**  
「プロフェッショナルリズム:生涯学習」「医学知識と科学的探究心」を学ぶために、様々な分野から特定の課題を選択し、その課題について調査・研究を行います。医学の進歩は日進月歩であり、その膨大な情報から取捨選択しながら学ぶ必要があり、自ら考え、学び続ける一步として本セミナーに取り組みます。

**■血液・造血器学**  
血液・造血系の生理、病理、薬理を理解します。鑑別診断を含む血液疾患の症候、分子・遺伝子病態、診断、治療(造血幹細胞移植・輸血を含む)を理解します。

## 4学年次 カリキュラム

臨床医学講義から  
臨床実習へ



### 実習を通して様々な医療が あることを実感できました

4学年次 伊藤 りほ（愛知県 南山高校出身）

3学年次からは臓器別・機能系別にユニットで括られた臨床医学の講義が始まりました。とてもハードなスケジュールで、ほぼ毎週テストを受けていたらあっという間に1年が過ぎていきました。もちろん大変でしたが、より本格的な臨床医学の学びは興味深く、楽しかったです。また地域包括ケア実習では、訪問看護ステーションで看護師の方とともに患者さんの自宅を回らせていただきました。実習前までは医療といえば病院の中で行い、患者さんが元の生活に戻れるように病気を治療するというイメージを持っていましたが、訪問医療のように病院の外で限られた医療資源を用いて治療し、慢性疾患に対する医療や終末期医療など完治させることが目的ではない、患者さんの生活を少しでも良くするための医療があることを実感できました。今後も様々な学びを通して、将来の進路を見つけていきたいと思っています。

#### Curriculum

|                |                |                  |
|----------------|----------------|------------------|
| ■プロフェッショナルリズム4 | ■耳鼻咽喉科学(口腔外科学) | ■臨床推論            |
| ■医学英語4         | ■麻酔科学          | ■地域医療総合医学        |
| ■医療と倫理         | ■救急医学          | ■地域医療早期体験実習      |
| ■選択講座4         | ■臨床感染症学        | ■臨床実習入門          |
| ■皮膚科学・形成外科学    | ■臨床腫瘍学         | ■基本手技・医療面接実習     |
| ■眼科学           | ■臨床遺伝学         | ■共用試験(CBT, OSCE) |
|                |                | ■クリニカル・クラークシップA  |



基本手技・医療面接実習



医療と倫理

#### Pick Up Curriculum

**■医療と倫理**  
プロフェッショナルリズムにおける、特に倫理に関わる医師としての価値観・態度・姿勢を身につけることを目標としています。さらに、コミュニケーションにおける良好な関係構築のために個人レベル、社会レベルの様々な問題を知り、「医学的知識と科学的探究心」における医学、医療を取り巻く社会における様々な問題を知り、解決するための根拠を収集し、それらの根拠を客観的に評価した上で、解決へと結びつける方法論を学びます。まず、患者の基本的権利を熟知し、これらに関する現状の問題点を学びます。また、医療と医学研究における倫理の重要性を知り、その上で倫理的、法律的、社会的な問題を様々な立場、視点から多角的に考え、ディベートにより、それらの問題に対する医師としての判断をどのように導くか、論理的な思考力とコミュニケーションを身につけることを目的としています。

**■地域医療総合医学**  
地域医療とは、対象とするコミュニティを特定し、そのニーズを明らかにし、その地域で包括的な医療を提供する医師として幅広い診療を提供するとともに、プライマリ・ヘルスケアの視点を持って地域全体の健康を目指して医療活動することです。地域医療実践のための総合診療、プライマリ・ケアおよび地域包括ケアについて学びます。

**■クリニカル・クラークシップA**  
「Student Doctor」の認定を受け、臨床実習を行います。学生が主体となり、患者さんとの関わりの中から臨床医学を学びます。従来型の見学主体ではなく、学生が研修医・指導医で構成される診療チームの一員として診療に参加し、指導医の監督のもとに実際の診療を行います。単に教科書に記載された知識の理解だけでなく、基本的診療技能、臨床現場での推論の仕方、患者さん・コメディカルとのコミュニケーションなどを修得します。



## 5学年次 カリキュラム

「Student Doctor」として  
医療チームに参加する



### 一人ひとりの患者さんに 誠心誠意、向き合いたい

5学年次 山田 悠希衣（愛知県 旭丘高校出身）

4学年次の秋からクリニカル・クラークシップAが始まりました。患者さんへの問診や身体診察、手術見学、カンファレンス参加など、より実践的な実習をさせていただき、とても貴重な経験となっています。また、診療科によっては担当患者さんをつけていただける機会もあります。私は、担当患者さんに対しては、いつも自分が主治医になったつもりで回診を行い、カルテを記載し、今後の治療方針について自ら調べ、考えるように努めています。そして、主治医の先生から指導していただき、実際の臨床現場で医師はどのようなことを考え、どのような治療を選択しているのかを学ばせていただいています。今後、患者さんの病気をしっかりと診断・治療できるようになることはもちろんですが、さらに、患者さんやご家族に寄り添い、「この先生と出会えて良かった」と思ってもらえるような医師になりたいです。

#### Curriculum

- クリニカル・クラークシップA
- クリニカル・クラークシップB

#### Pick Up Curriculum

■ クリニカル・クラークシップA、B  
学生が主体となり、患者さんとの関わりの中から臨床医学を学びます。従来型の見学主体ではなく、学生が研修医・指導医で構成される診療チームの一員として診療に参加し、指導医の監督のもとに実際の診療を行います。単に教科書に記載された知識の理解だけでなく、基本的診療

技能、臨床現場での推論の仕方、患者さん・コメディカルとのコミュニケーションなどを修得します。クリニカル・クラークシップBでは、学生自ら選択する診療科で実習を行い、一部の期間には学外の協力病院を選択し実施しています。



## 6学年次 カリキュラム

医師国家試験に向けて  
6年間の学びを総括する



### 先生方を目標に 信念を持った医師になりたい

6学年次 花林 卓哉（岐阜県 鶯谷高校出身）

臨床実習では、先生方が行っていることを、もし自分が当事者だったとしたら、と意識しながら注意深く観察し、疑問点を先生方に聞いたり、自ら調べたりして学習に努めました。実際に患者さんに触れると、今までの講義や教科書の知識から持っていた疾患のイメージと異なることが多々あり、患者さんの症状の把握や、それに基づく臨床推論の組み立て、及びその後の治療計画の作成の難しさを実感しました。最も印象に残ったのは、先生方の医療への姿勢です。ある先生は手術後の患者さんのベットサイドに行き、遅くまで見守り、機器の調整を加えていました。ある先生は患者さんを待たせてはいけなく、と外来時は昼ごはんを返上してこなしていました。そういった先生方の姿勢に、私は医師という仕事の意味とやりがいを強く感じました。これからも、先生方の姿勢を目標として、信念を持った医師になりたいと思います。

#### Curriculum

- クリニカル・クラークシップB
- Post-CC OSCE
- 総合試験

#### Pick Up Curriculum

■ 総合試験  
卒業を認定するための医学知識を問う試験です。医師国家試験と同じ形式で、医学全般にわたる幅広い知識が求められます。

■ Post-CC OSCE  
卒業を認定するための技能試験です。模擬患者を前に模擬診療を行います。医療面接から始まり、患者への接し方や診察手技が正しく行えるかが問われます。



#### 医師 国家試験

基礎医学・臨床医学・社会医学すべての医学関連科目が出題範囲であり、科目ごとの試験ではなく、すべての科目を取り混ぜた総合問題形式で2日間、計400題の選択肢問題で行われます。医師として知っておくべき内容を出題するとして、概ね4年に1度「医師国家試験出題基準」が改訂され、そこに挙がっている項目、疾患などを基本として出題されます





## 医師国家試験に向けて

近年の医師国家試験では、臨床現場での的確な処理能力などが求められるようになり、より総合化した幅広い知識が必要になってきています。そのため、初年次から大学病院での体験実習を取り入れ、4学年次から6学年次までは臨床実習を実施しています。臨床実習は診療参加型の実習であり、5学年次後半からは実習する診療科を自ら選択でき、一部の期間は学外の病院を選ぶこともできるなど、臨床実習を重視したカリキュラムになっています。6学年次には、これら臨床実習の集大成となる臨床技能試験のPost-CC OSCEを実施し、総合的な医学知識を問う総合試験を実施しています。総合試験は医師国家試験と同じ形式で実施します。また、模擬試験や集中講義などの医師国家試験に向けたカリキュラムや、グループ学習を取り入れてグループごとに勉強会室を提供するなど、様々な面から万全の国家試験対策を実施しています。



視聴覚室(医心館)



総合学術情報センター(図書館)

国家試験対策委員長からメッセージ

### 国家試験合格は「義務」だと考えています

6学年次 大石 紘之 (愛知県 東海高校出身)



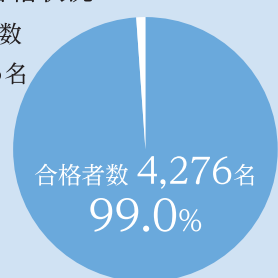
本学では5学年次のうちから6学年次と同じ学内試験、模試を受けることで、目標に向けて早期から勉強に打ち込むことができます。また、教員と学生で「国家試験対策強化委員会」を構成し、常時勉強の相談に対応するほか、国家試験の傾向を分析し公開するなど、最新の情報収集にも努めています。6年間という時間を医学部で過ごす以上、国家試験合格は目指すものではなく「義務」だと考えています。その義務を全員が果たせるよう頑張っていきます。

## 医師国家試験に高水準の合格率

本学部ではカリキュラムや学修環境の整備などによって学修効果を上げ、医師国家試験合格率が高い水準で安定することを目指します。  
 なお、現在までの卒業生全体4,318名のうち4,276名(99.0%)が国家試験に合格し、医師として活躍しています。

### ◆卒業生合格状況

卒業生総数  
4,318名



### ◆医師国家試験合格状況

|              | 新 卒        |       | 既 卒        |       | 全 体        |       |
|--------------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|
|              | 合格者<br>受験者 | 合格率   | 合格者<br>受験者 | 合格率   | 合格者<br>受験者 | 合格率   |
| 第112回(2018年) | 103<br>108 | 95.4% | 14<br>21   | 66.7% | 117<br>129 | 90.7% |
| 第113回(2019年) | 101<br>107 | 94.4% | 3<br>11    | 27.3% | 104<br>118 | 88.1% |
| 第114回(2020年) | 98<br>104  | 94.2% | 8<br>15    | 53.3% | 106<br>119 | 89.1% |



## 大学院医学研究科

### これからの医療・医学界において リーダーシップを発揮できる研究者を養成します

大学院医学研究科(博士課程)の目的は、「国際水準の研究遂行能力を有する研究者を養成すること」です。

この医学研究科は、「基礎医学系」と「臨床医学系」の2つの専攻系から成ります。

「基礎医学系」は13の授業科目、「臨床医学系」は30の授業科目でそれぞれ構成しています。

各専門分野においては、高度で先端的な研究を展開するとともに  
 国際的レベルの研究を行う能力を有する研究者の養成を目指しています。

このため、「基礎医学専門研究者養成」と「先端的臨床研究者養成」の

2つのコースを設け、どちらか1つを選択してもらいます。

また、夜間にも授業を開講して、働きながら高度の研究能力を身につけようとする人を、  
 社会人学生として積極的に受け入れています。



生理学講座 教授 佐藤 元彦(写真 左から2人目)



生化学講座 教授 細川 好孝(写真 右端)

### ■博士課程

| 専 攻   | 授 業 科 目                                                                   |                                                                           |                                                                                    |                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎医学系 | ●解剖学<br>●生理学<br>●生化学<br>●薬理学                                              | ●分子医科学<br>●病理学<br>●感染・免疫学<br>●加齢医科学                                       | ●衛生学<br>●公衆衛生学<br>●法医学<br>●医学・医療教育学                                                | ●細胞生物学(生物学)                                                                   |
|       | ●内科学<br>●精神科学<br>●小児科学<br>●皮膚科学<br>●放射線医学<br>●総合医学<br>●医療薬学<br>●輸血・細胞治療医学 | ●睡眠医学<br>●外科学<br>●脳神経外科学<br>●整形外科学<br>●泌尿器科学<br>●眼科学<br>●耳鼻咽喉科学<br>●産婦人科学 | ●麻酔科学<br>●救命救急医学<br>●リハビリテーション医学<br>●形成外科学<br>●口腔外科学<br>●病理診断学<br>●臨床感染症学<br>●新生児学 | ●がん治療学<br>●緩和・支援医療学<br>●統合疼痛医学<br>●災害医学<br>●戦略的先制統合医療・<br>健康強化推進学<br>●医療安全管理学 |



# 国際交流

## よりグローバルな視野を養うために

アメリカの南伊利ノイ大学(SIU)医学部との相互交流では、5学年次を対象に「臨床実習選択コース」、3・4学年次を対象に「SIU医学部2学年次カリキュラム受講コース」の2コースを用意しています。さらに2011年度以降はアメリカのみならず、ヨーロッパ、アジアへも目を向け、世界各地の医療や医学教育の現場を体験できる機会を設けることを目的に、ドイツのルール大学(RUB)医学部、タイのコンケン大学(KKU)医学部、韓国の東亜大学校医科大学、ポーランドのウッチ医科大学(MUL)及びアメリカのバーモント大学(UVM)と国際交流をスタートし、グローバルな視野を養う場を提供しています。加えて、2019年度には、イランのシーラーズ医科大学(SUMS)及びウクライナのキエフ医科大学(KMU)と、2020年度には、ポーランドのポズナン医科大学(PUMS)と学術国際交流協定を締結し、現在は計9大学の医学部と国際交流活動を広く展開しております。

### 国際交流センター長 Message



### グローバルな医療人を 目指してほしい

国際交流センター長  
渡辺 秀人 教授

国際交流センターは、国際的視野を有する医療人の育成を目指しています。教員の海外派遣、外国人研究員の支援、教職員の語学能力の向上など、様々な事業に取り組み、学内外の活発な国際交流を行っています。なかでも学部学生の海外派遣事業は「世界の広さ」と「地球の小ささ」を同時に実感できる貴重な機会を学生に提供しています。世界共通の医療人としての資質・姿勢と地域ごとの医療の差異・特徴を学ぶことは人生の貴重な経験となり、将来の活躍の礎となるでしょう。



## 新たな学術国際交流協定

愛知医科大学では、さらなる国際交流の活性化を目指し、新たに3大学と学術国際交流協定を締結しました。これにより、本学の医学生が交流できる大学は9大学となりました。相互の大学の教員同士の確かな信頼関係のもと、今後は、学生のみならず教員の交流活動を通して、これらの大学とゆるぎない友好関係を着実に育んでいきたいと考えています。

- 2019年8月 シーラーズ医科大学(イラン)
- 2020年3月 キエフ医科大学(ウクライナ)
- 2020年4月 ポズナン医科大学(ポーランド)



## アメリカ 南伊利ノイ大学(SIU)医学部

本学では、現在米国南伊利ノイ大学(SIU)医学部との学生交換を含む包括的な相互交流を行っています。例年、本学医学部学生10名程度が留学し、同大学医学部からは、2019年度は4名の学生が短期留学しました。本学の学生の短期留学プログラムは、2つのコースからなっています。それぞれ英語面接により医学英語力などを見て、留学生を決定します。留学時の宿泊費は大学が負担しています。



### ■ SIU医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした8週間のSIU医学部の4学年次用(日本の6学年次に相当)臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。例年、5学年次の2月から3月にかけて4名程度が留学しています。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。

### ■ SIU医学部2学年次カリキュラム受講コース

主に3・4学年次の学生が対象となり、主に春休みの約3週間を利用して、SIU医学部の2年生カリキュラムを受講する制度です。SIU医学部2年生と共に問題解決型学習(PBL)、チュートリアル講義などに参加します。例年、7名程度が留学しています。



留学生 Message

6学年次 花岡 黎 (東京都 暁星高校出身)

## 興味があるなら、ぜひ挑戦を!

私は愛知医科大学に入学した時から、留学に行きたいという憧れがありました。3学年次でSIU医学部2学年次カリキュラム受講コースに参加でき、その時にアメリカの教育の質や学生のレベルの高さに驚かされ、自分にとって良い勉強になったので、5学年次に臨床実習選択コースにも挑戦しました。このコースでは自分が実習したい診療科を選択することができます。私は内科系の診療科に興味があり、感染症内科、血液腫瘍内科、神経科の3つの科で実習をしました。中でも血液腫瘍内科は、抗癌剤を使用するばば全ての部位の癌の患者さんを診ており、副作用の管理も含め様々な癌の治療を学ぶことができ、とても興味深かったです。もちろん、診療科の選択は一般外科や整形外科などの外科系もできますし、日本ではあまり馴染みがないかもしれませんが、地域に根ざして幅広く診療を行う家庭医も選択できます。実習は、当たり前ですが全て英語で行わなければならないですが、言葉以外のコミュニケーションも使いながら、患者さんと先生と良い関係を築き、苦勞を乗り越えたという経験は、間違いなく自分の自信になります。環境を変えることは自分を変えるきっかけになると言えるのではないのでしょうか? 少しでも留学に興味のある方はぜひ挑戦してみてください!



## アメリカ バーマント大学(UVM)医学部

本学では、2017年11月、バーモント大学(アメリカ)と学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心とした相互交流をスタートさせました。2018年4月には同大学医学部から2名の学生が、2019年4月には本学医学部学生1名が初めて同大学医学部へ短期留学しました。



### ■ UVM医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。また、日本の他大学の医学部学生と共に実習することとなります。このコースへの参加は、本学で6学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。



留学生 Message

Nathaniel Sugiyama, Fran Riley

Given our interest in health care systems, particularly in Japan's world class nationalized system, our love of exploring new cultures, and our desire to visit a medical university that managed high levels of care, we jumped at the opportunity to visit Aichi Medical University Hospital. We spent one week in the Surgical Pathology Department, and one week with the Anesthesiology Department and the Pathology Department. We cannot speak highly enough about the departments that hosted us. We thoroughly enjoyed our time at Aichi Medical University and would recommend our colleagues to visit as well. Furthermore, the time we spent with the Aichi Medical School students and the other visiting international medical students expanded our global perspectives and created lifetime connections. We are glad we had the fortune to spend our time at the Aichi Medical University Hospital and would gladly do it all over again! Thank you for your generosity and hospitality! We hope you will visit us in Vermont, USA soon!



## ドイツ ルール大学(RUB)医学部

ドイツのルール大学医学部とは、2012年1月に学術国際交流協定を締結し、以来活発な相互交流が行われています。

同大学とは、学内サークルHIAMU (Heart in Aichi Medical University)を中心に、学生が主体的に交流活動を行っており、同大学の内科・外科などで、例年2名程度の本学医学部学生が臨床実習を行っています。また、2019年度は、同大学医学部から2名の学生が短期留学しました。

 →  留学生 Message

Samantha Witte

The First of all questions is mostly: why did you choose Japan for your medical internship? I chose Japan because I was interested in the country and its culture. I knew that Japan is a pretty well developed country with a high standard in medical treatment and a good medical system. My first internship was in Myanmar, one of the largest Southeast Asian countries but less developed. I thought it would be interesting to compare the both Asian countries, and that's what it was. The doctors of my department integrated me very well into their team. I learned a lot about medicine. They let me scrub in, explained everything and answered all my questions, and you can believe me when I say I had a huge amount of questions. However, even more important: I learned about their culture, their beliefs, their celebrations, their way of life and their food. I also made many good friends: Japanese students, exchange students and doctors from all over the world.



As an exchange student from Ruhr-University Bochum in Germany, I spent four weeks in the Gastroenterology Department at the Aichi Medical University Hospital. Most of the time I was in the Endoscopy Center and it was a great experience of clinical practice abroad. Everyone was so kind and explained and translated everything for me. They showed me different treatments from polypectomy to ESD (Endoscopic Submucosal Dissection) and I got to know the differences and similarities compared to the gastroenterology in Germany and the German medical system. Additionally to the medical experience, doctors and students introduced me to typical food and showed me sights around the area. It was so nice to spend time with them and to be integrated in life in Japan. All in all it is an amazing opportunity to spend some time abroad, get to know medicine in Japan, and also get to know Japanese culture and be overwhelmed by Japanese hospitality.



Sophie Wollnitzer



### ■KKU医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で6学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。



## タイ コンケン大学(KKU)医学部

世界のあらゆる地域の医療や医学教育の現場を経験することを目指して国際交流を推進するため、タイ コンケンに位置するコンケン大学(KKU)医学部と、2011年11月に学術国際交流協定を締結し、積極的に学生等の交流を推進しています。

2012年度に開始された学生等の交流も既に9年目となり、KKU医学部との関係は成熟し、例年、同大学医学部に10名までの医学部学生が短期留学しています。また、2019年度は、同大学医学部からは2名の学生が短期留学しました。今後も、学生、若手医師、研究者と幅広い交流を予定しており、交流のますますの発展が期待できます。

 →  留学生 Message

Weeriya Jeerasuwannakul

It was a great opportunity to be here in Aichi Medical University as an exchange student. In order to know more about Japanese health care system, innovated medical technologies and Japanese cultures, I spent a month attending the Emergency and Critical Care Medicine and the Breast and Endocrine Surgery at the Aichi Medical University Hospital. Among generous doctors and nice friends, I was able to share all the experiences I had at the Srinagarind Hospital, Khon Kaen University, including daily running in the hospital, health care system, knowledge and Thai cultures. I am always excited about exploring the similarities and differences between our universities. Not only observing daily activities and medical system in the hospital, but I was also allowed to join some of those under the support of doctors. This one month is surely one of the most valuable memories for me.

## ポーランド ウッチ医科大学(MUL)医学部

ポーランドのウッチ医科大学とは、2016年2月に学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心とした相互交流をスタートさせました。例年、相互の大学から4名までの医学部学生が短期留学しています。2019年度は、相互関係の範囲を拡大し、新たに教員などの交流プログラムにも参加しました。

 →  留学生 Message

Elzbieta Kalaczynska

This summer yet again I had an amazing opportunity to participate in exchange between Aichi Medical University and my university. I had a wonderful experience last year with the exchange and this year I have decided to apply for it as well. Thanks to this amazing programme, I could be in the Ophthalmology and the Oculoplastic, Orbital and Lacrimal Surgery as well as in the Laryngology. I was able to observe and examine patients in the respective wards and outpatient clinics, participate and assist in numerous surgery cases, and participate in wet lab, lectures, and classes. It was a perfect environment to improve language skills, both English and Japanese. However, aside from acquiring medical knowledge and undergoing practical training, I had an amazing opportunity to meet people with different backgrounds. Both Japanese local students, doctors and friends from abroad. Truly, it is people that make the journey enjoyable and worth remembering. I would like to extend thanks to all the wonderful doctors, staff members, students and friends that created this unforgettable experience together with me.



### ■MUL医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。



右から2人目

## 韓国 東亜大学校医科大学

愛知医科大学では、南イリノイ大学(アメリカ)を始め、複数の学術国際交流協定大学と学生の交流を中心に活発に国際交流を行ってきておりますが、2015年5月、東亜大学校医科大学(韓国)と医学生が交流できる大学として4大学目となる学術国際交流協定を締結しました。2016年度は同大学から研究者を受入れ、相互の国際的協力を促進する一助となりました。今後は学生の交流活動を含めたより良いプログラムの立案・実施に向けて引き続き協議していきます。



**TOPICS** 愛知医科大学では、学術国際交流協定を締結している大学のほか、より国際化に対応するため、協定大学以外からも留学生を受け入れています。

Cyberjaya University  
留学生 Message

Maisarah Mohd Abd Rashid

Hello. I am Sara, a medical student from Malaysia. I am grateful to have been accepted to do my medical elective posting at the Aichi Medical University Hospital. I was in the Dermatology Department for three weeks. I had fun learning various spectrum of skin diseases during my posting in the Dermatology Department. I am very grateful to be able to meet and learn from such friendly and helpful doctors, staff and students. They would try their best to explain things and are eager to share their knowledge on specific health issues and procedures related to the specialty. I also would like to extend my gratitude towards doctor-heli team for giving my friends and me a brief tour regarding doctor-heli. It was an amazing experience for us! Besides learning, I am glad that I chose to do my elective posting here as I could travel the other parts of Japan and experienced Japanese culture. Also, a special thanks to the Medical Student Association (HIAMU) who have been very friendly and also gave a very warm farewell party for us. 本当に、どうもありがとうございました!



Taipei Medical University  
留学生 Message

Tzu Hsuan Tseng

The Aichi Medical University Hospital gave me a great first impression because the new hospital design was integrated with human nature and the digital hardware was also constructed. I felt comfortable doing my clinical observation in this hospital and explored freshness at the same time every day. I attended the Gastroenterological Surgery and the Dermatology Department in a month where doctors welcomed me with open arms and had passion for teaching and translating. They gave me many chances to train myself and review medical knowledge. Owing their kindness and hard work, I could benefit a lot from bedside round, surgery, lecture, outpatient clinic, and conference. I enjoyed sharing differences of cultures, medical education, and health care systems between Japan and my country with local Japanese students. I am thankful to the Aichi Medical University Hospital for providing me with this precious opportunity.





# 学修施設

## 総合学術情報センター



総合学術情報センターでは、知の拠点として、様々な媒体の学術情報を蓄積し、利用できる場であり続けるとともに、学生がICTを利活用して「自ら学修し、自ら気づき、自ら成長する」拠点としても整備されています。センターには、図書館、マルチメディア教室など、学生の学修スタイルに合わせて学べる空間が広がっています。

図書館では、エントランスの吹き抜けにみられる開放的な空間設計を基本とし、閲覧席、個人ブース、利用者用パソコン、グループ学習室など、快適な学修環境を備えています。館内の利用者端末や無線LAN接続により、電子ジャーナル・電子ブック（インターネットで閲覧する学術雑誌・書籍）や情報検索データベースにアクセスすることができます。図書館利用ガイダンス、各種データベースや電子ジャーナルの利用講習会を通して、学生の情報リテラシー（活用能力）の養成にも精力的に取り組んでいます。

また、土日・祝日開館〔年間72日（2020年度予定）〕、地域住民への施設開放、近隣公共図書館との連携による健康支援事業（めりーらいん）の推進など、様々な学修支援にも積極的に取り組んでいます。

マルチメディア教室では、1人1台の端末（パソコン）を設置し、どの席からでも授業で使われる動画や画像の資料が見やすくなるよう、前方に大型スクリーン（100インチ）、学生卓に小型モニター（17インチ）をそれ

ぞれ設置しています。この教室の他にも、無線LANによるレイアウト自在の少人数セミナー室や、常時開放のオープン利用室には、個室感覚で端末（パソコン）を利用できるタイプと、グループ学習での利用ができるタイプがあります。用途に応じていつでも自由に利用できます。ICTを活用し、eポートフォリオの作成、授業で使った講義資料などがインターネットを使って、復習できるシステムを提供して

います。また、レポート作成に使われる文書作成ソフト、医療現場で使われる医療英語（英単語・イディオム）を修得する英語学習ソフト、医学や看護学の統計解析に欠かせない専用処理ソフトなど、授業や自主学習、問題解決型学修（少人数で課題を達成していく学修手法）で活用できるソフトウェアを数多く用意しています。様々なご質問にはセンタースタッフが丁寧にお応えし、サポートします。



## 医心館



### 充実した学修環境を提供する「医心館」

大学本館に隣接する、グループ学習および個人学習のいずれにも対応した学修環境を持つ「医心館」は、主に医学部6学年次生および看護学部4学年次生が国家試験に向けてお互いにディスカッションできるグループ学習の場所として利用可能な

35室のセミナー室があるほか、個人ブースで学習できる視聴覚室があります。

### セミナー室

国家試験合格に向けてグループ学習をするために、6学年次生が利用。4月から医師国家試験が終了するまでの期間、毎日7時～24時まで使用することができます。

国家試験に向けてお互いにディスカッションしながら学修することで学力の向上を図っています。

### 視聴覚室（個人ブース）

視聴覚室は3部屋あり、計36の個人ブースからなっており、学生が集中して学習できる場所となっています。

## 医学教育センター

医学教育センターは、医学教育に関する情報収集および分析、教員の教育評価システムの構築および教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）の企画・実施などを行い、医学教育の改善・改革を図ることを目的としています。

センター（大学本館7階）には、教員室、会議室、学生スペースなどを備え、医学教育活動の拠点として活用されています。こうした環境のもとで、本学に最適な教育・学修方法を教員と学生が一緒になって考えていきます。

主な活動としては、カリキュラム改革に向けての調査・研究、教員のFD、学修者評価の質、学修環境の充実、成績不振者に対する総合的な学修支援活動のみならず学修者のニーズに応じた潜在能力の開発支援などが挙げられます。

## 本館セミナー室

大学本館2階・3階のセミナー室は20室あります。主に3学年次までの学生が使用することができ、グループでのレポート作成やテスト前のグループ学習などのために使用されています。各室の収容人数は10名程度です。使用できる時間は8時30分～22時で、授業の空き時間や休日にも利用できる自習室の存在は貴重です。

大学本館7階は、医学部5学年次生が使用するセミナー室が2室（グループ学習室：70席、個人ブース室：60席）および、医学部4学年次生が使用するセミナー室が1室（グループ学習：36席、個人ブース：14席）が整備されています。3部屋で計180名を収容するこの広大な学習スペースでは、主に臨床実習や講義終了後のグループ学習やレポート作成などに使用されています。



本学では各教室、セミナー室にWi-Fiを整備し、授業支援システムAIDLE-KというWEBを使って授業を行うeラーニングを実施しています。講義資料の閲覧、講義の予習や復習、アンケートの回収など幅広く利用されています。学生はパソコン、タブレットを用いて、この環境を積極的に活用しています。





- 4 ■ 入学式  
■ 新入生ガイダンス  
■ 新入生研修(1学年次)  
■ 前学期授業開始  
■ 定期健康診断  
■ パーモント大学短期留学(6学年次)  
■ 交通安全講習会



- 5 ■ 解剖慰霊祭  
■ 早期体験実習[シミュレーション実習](1学年次)  
■ 総合試験(5・6学年次)



- 6 ■ 早期体験実習[看護体験実習](1学年次)

- 7 ■ 外来案内実習(2学年次)  
■ Post-CC OSCE(6学年次)  
■ 地域医療早期体験実習(4学年次)  
■ 夏季休業



- 8 ■ 夏季休業  
■ 共用試験CBT(4学年次)  
■ 西日本医科学生総合体育大会



- 9 ■ 後学期授業開始(1～3学年次)  
■ 早期体験実習[臨床科見学実習](1学年次)  
■ 地域包括ケア実習(3学年次)  
■ 共用試験OSCE(4学年次)



- 10 ■ 防災訓練  
■ 後学期授業開始(4・5・6学年次)  
■ 白衣式(4学年次)  
■ 交通安全講習会  
■ 総合試験(5・6学年次)



- 11 ■ 医大祭  
■ 後学期授業開始(5学年次)

- 12 ■ 冬季休業



- 1 ■ チーム医療実習(2学年次)

- 2 ■ 地域社会医学実習(2学年次)  
■ 医師国家試験  
■ 南イリノイ大学短期留学  
■ 臨床実習選択コース(5学年次)  
■ ルール大学短期留学(5学年次)  
■ ウッチ医科大学短期留学(5学年次)  
■ コンケン大学短期留学(5学年次)



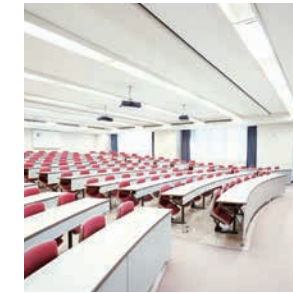
- 3 ■ 卒業証書・学位記授与式  
■ 医師国家試験合格発表  
■ 春季休業  
■ 南イリノイ大学短期留学  
■ [2学年次カリキュラム受講コース](3・4学年次)



1号館(大学本館)



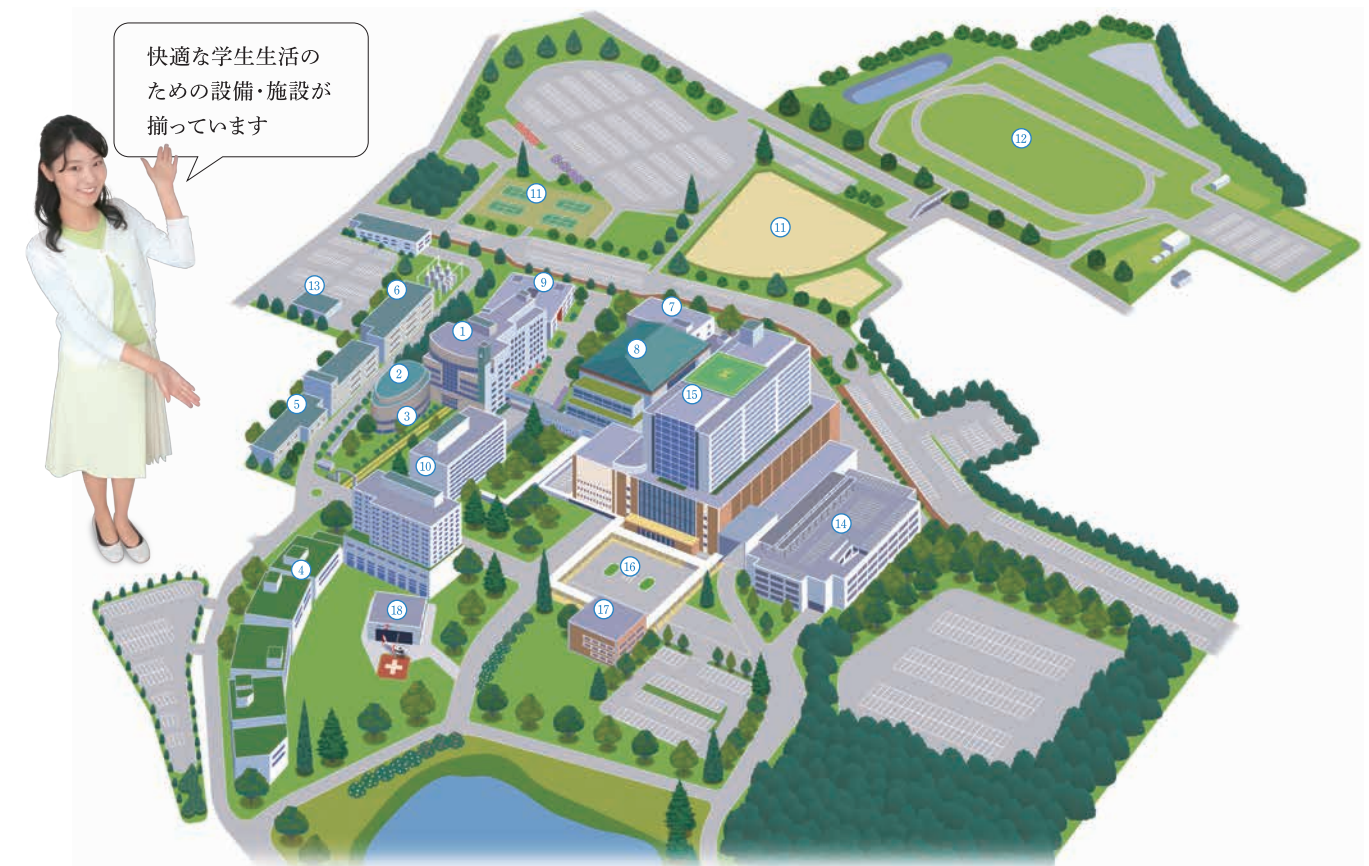
たちばなホール



講義室



総合学術情報センター(図書館)



- ① 1号館(大学本館)  
② たちばなホール  
③ レストランオレンジ  
④ 2号館(研究棟)  
⑤ 3号館(基礎科学棟)  
⑥ 4号館(看護学部棟)

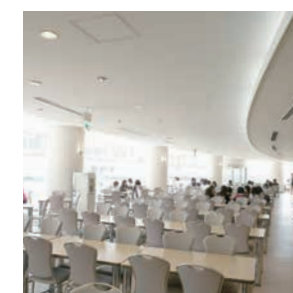
- ⑦ 5号館  
(総合実験研究棟・動物実験部門)  
⑧ 6号館  
(体育館・運動療育センター)  
⑨ 7号館(医心館)  
⑩ C棟(C病棟)・D棟(D病棟)

- ⑪ 雁又グラウンド  
(テニスコート・野球場)  
⑫ 寅山グラウンド  
(陸上・サッカー・ラグビー・弓術場)  
⑬ 保育所(アイキッズハウス)  
⑭ 病院外来駐車場(立体)

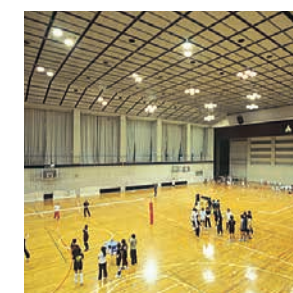
- ⑮ 中央棟(診療棟・A病棟・B病棟)  
⑯ バスロータリー  
⑰ アメニティ棟(立石プラザ)  
⑱ ドクターヘリ格納庫



7号館(医心館)



レストランオレンジ



6号館(体育館)



6号館(運動療育センター)



クラブ&サークル活動が盛んなことは、  
愛知医科大学の伝統です。  
学年を越えて趣味や興味を  
共有できる仲間と出会い、  
ともに熱中できる有意義な時間を  
過ごせます。



クラブ & サークル 一覧

- |                  |        |        |          |            |          |              |                                                  |                             |         |
|------------------|--------|--------|----------|------------|----------|--------------|--------------------------------------------------|-----------------------------|---------|
| ■アイスホッケー部        | ■剣道部   | ■ゴルフ部  | ■スキー部    | ■東洋医学研究会   | ■バレーボール部 | ■ラグビーフットボール部 | ■HIAMU (Heart in Aichi Medical University)       | ■アンサンブル同好会                  | ■卓球同好会  |
| ■弓術部 (和弓・アーチェリー) | ■硬式庭球部 | ■サッカー部 | ■ボード部    | ■バスケットボール部 | ■ハンドボール部 | ■陸上競技部       | ■合気道部                                            | ■棋道同好会                      | ■天文学同好会 |
| ■軽音楽部            | ■硬式野球部 | ■水泳部   | ■ソフトテニス部 | ■バドミントン部   | ■ボウリング部  | ■ワンダーフォーゲル部  | ■ACISIS (Aichi Clinical Skill Improving Society) | ■MSC (Medical Science Club) |         |



キャンパスのある愛知県長久手市からは、隣接する名古屋市へのアクセスも快適。さらに、文化や歴史を感じる観光スポットからアミューズメント施設まで、東海3県の様々なエリアへ気軽に出かけられる便利なロケーションです。

GIFU 岐阜  
AICHI 愛知  
MIE 三重

### 周辺エリア紹介

- ナガシマスパーランド**  
ジェットコースターをはじめ、多種多様なアトラクションが揃った日本最大級の遊園地です。
- 白川郷〈世界文化遺産〉**  
合掌造りの集落群は、世界文化遺産にも登録。昔ながらの農村風景が広がっています。
- 飛騨高山**  
江戸時代以来の城下町、商家町が今も残り、「飛騨の小京都」と呼ばれています。
- 名古屋城**  
尾張徳川家の居城として400年以上にわたって市民に親しまれている歴史的名所です。
- ラグーナテンボス**  
エンターテインメントやショッピング、温泉などを満喫できる総合マリニリゾートです。
- 伊勢神宮・おかげ横町**  
約2000年の歴史を有する伊勢神宮。おかげ横町は食べ歩きやショッピングも充実。
- 鈴鹿サーキット**  
毎年、F1が開催される本格的なレーシングコースがあり、他にも遊園地やプール、キャンプも楽しめます。
- 愛知医科大学 愛知医科大学病院**
- 県営名古屋空港**
- 中部国際空港**
- リニア中央新幹線 名古屋ー品川間 2027年開業予定**

### 長久手エリア NAGAKUTE AREA

静かな環境ながら  
多彩な便利施設がいっぱい

藤が丘・長久手周辺に続々と新しいお店が誕生。ますます活気づいてきました。学校帰りに買い物でもできアフタースクールも楽しめます！

キャンパスの  
周辺は  
こんなところ



▶愛・地球博記念公園 (モリコロパーク)

愛知万博長久手会場の跡地にオープンした総合公園。万博でも人気を集めたサツキとメイの家をはじめ、2022年秋には「ジブリパーク」も開業予定です。



▶藤が丘effer

藤が丘駅前の商業施設。「成城石井」や「スターバックスコーヒー」など各種食品・飲食店のほか、ヘアサロンもあります。



▶トヨタ博物館

ガソリン自動車が生誕した19世紀末から20世紀の自動車の歴史を体系的に展示した自動車博物館です。

自転車で通学できる場所で住宅を借り、学生生活を始めました。静かな住宅街ですが飲食店も多く、少し足を伸ばせば映画館もあるショッピングモールもあって、とても暮らしやすい場所だと思います。

2学年次  
黒崎 伊織  
(兵庫県 灘高校出身)



リニモ(東部丘陵線)

磁気浮上式システムによる日本初の本格的な営業路線として開通。名古屋市の藤が丘駅と豊田市の八草駅を結んでいます。



「藤が丘」駅から名鉄バスで約15分。地下鉄東山線「藤が丘」駅から愛知医科大学までは、名鉄バスで約15分です。

### 愛知医科大学のある長久手市はどんな街？

愛知医科大学を始め市内に4大学、さらに周辺にも多くの大学が集まる県内有数の文教エリアです。最近では大型商業施設も次々とオープンするなど、若いファミリー層からも人気の街として、ますます成長を続けています。豊かな自然と、ニュータウンとしての快適性が共存する長久手市は、じっくり勉強に取り組むのにも、心地良く暮らすのにも適した環境です。



| 市民の平均年齢の若さ                       | 人口の自然増加率<br>(出生数ー死亡数) | シティブランド・ランキング<br>ー住みよい街2019ー |
|----------------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 全国<br>第1位<br>日本一<br>若い街<br>38.6歳 | 全国<br>第1位             | 全国第12位<br>第1位<br>(愛知県)       |

参考資料 ●市民の平均年齢(2015年国勢調査) ●住民基本台帳に基づく人口動態(2016年総務省) ●日経BP

### 名古屋エリア NAGOYA AREA

2027年にリニア中央新幹線が開業予定  
名古屋がますます便利に、快適に〈名古屋↔品川 40分〉

藤が丘から地下鉄東山線で名古屋の都心に直結。高層ビルが続々とオープンするなど、発展を続ける名古屋駅周辺や、デパート・ブランドショップが集結する栄などへのアクセスも便利です。



▶JRゲートタワー

2017年4月、JR名古屋駅に直結する「JRセントラルタワーズ」の隣にオープン。ホテルやデパート、レストランなどの施設が揃っています。



▶グローバルゲート

2017年10月、名古屋駅から南に1駅の、あおなみ線「ささしまライブ」駅前にオープン。商業施設やホテル、オフィスなどが入っています。



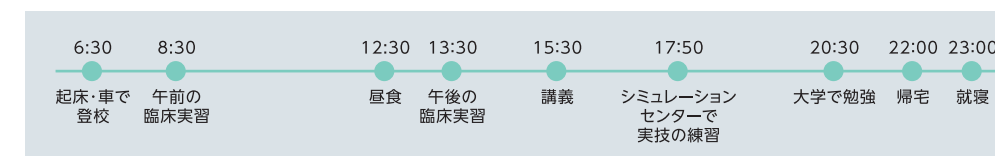
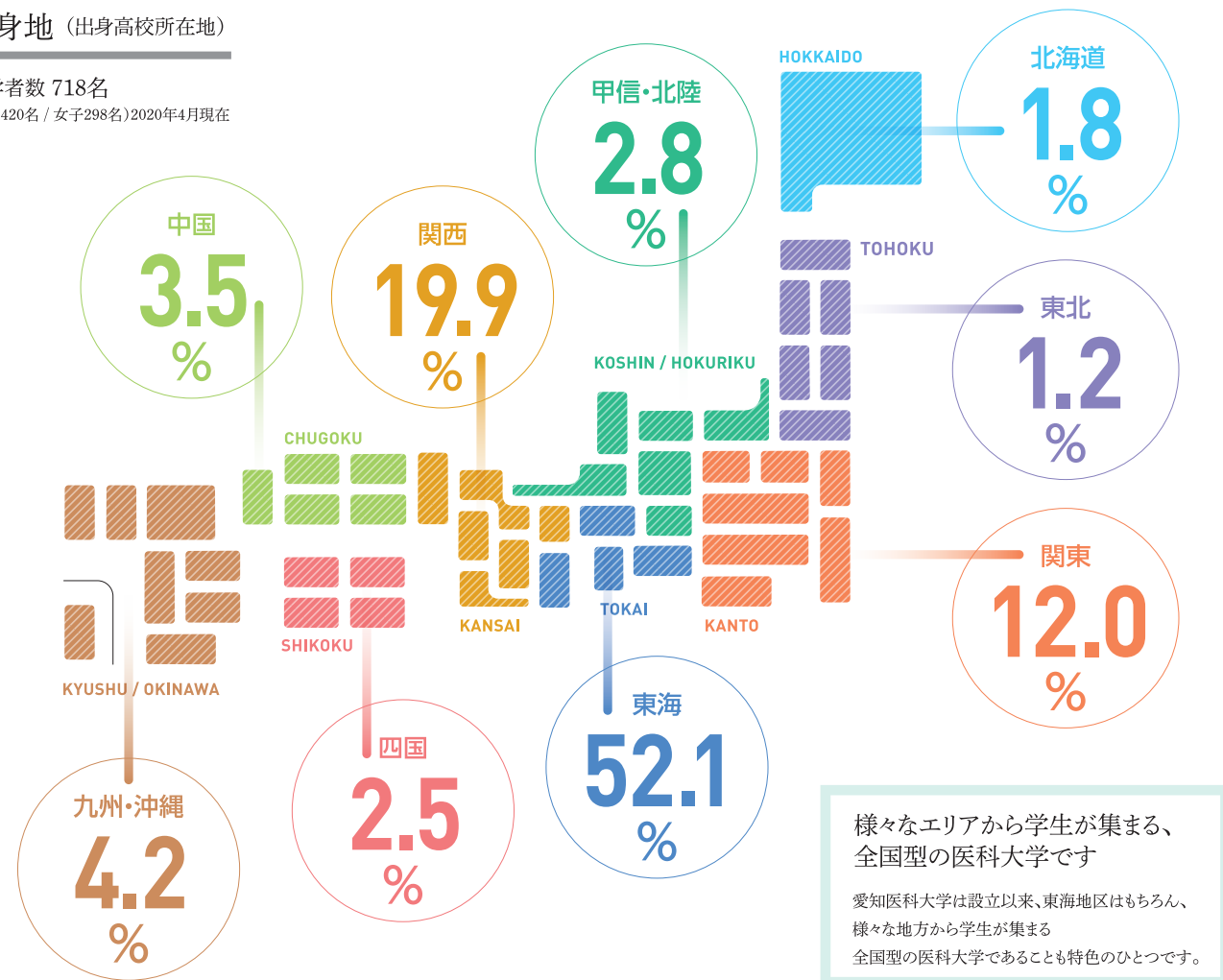
▶レゴランド®・ジャパン

レゴランドが日本に初進出。40種類以上のアトラクションのほか、シアター、レストラン、ショップなどが揃っています。

おしゃれな店がどんどん増えている名古屋駅周辺や、東山動植物園、名古屋港水族館、レゴランド®・ジャパンなど、名古屋市内には楽しく過ごせる場所がたくさんあります。海にも山にも行きやすく、休日にも楽しめますよ！

2学年次  
堀田 万理恵  
(愛知県 愛知淑徳高校出身)





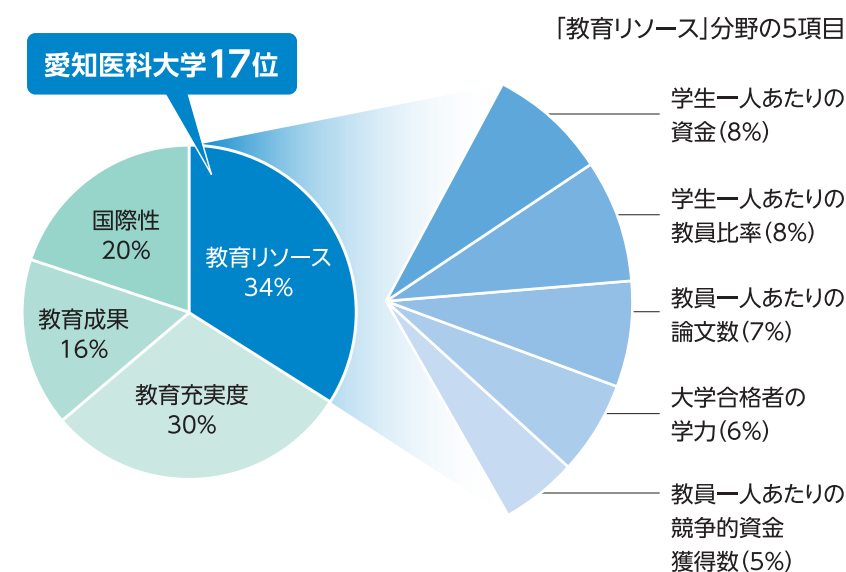


## THE世界大学ランキング日本版2020 教育リソース分野で17位にランクイン

「THE世界大学ランキング日本版」とは、従来の大学ランキングでは見えにくかった「教育力」に着目し、日本の大学の真の実力を世界へ発信するものです。「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」という4分野と16項目で構成され、大学の教育力を総合的に表しています。

### 教育リソース

THE世界大学ランキング日本版のランキング指標のうち、「教育リソース」は充実した教育を行うための環境が整っているかどうかを指標化したものです。「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野の指標の中で評価の割合が最も大きく、ランキング指標全体の34パーセントを占めます。「教育リソース」分野の指標は、「学生一人あたりの資金」「学生一人あたりの教員比率」「教員一人あたりの論文数」「大学合格者の学力」「教員一人あたりの競争的資金獲得数」の5項目から構成されています。これらの項目を総合し、教育のいわゆる資源を表しています。



### 「教育リソース」分野のスコアが高い大学は、質の高い学びができる環境

#### 学生一人あたりの資金

大学が多くの資金を持っているほど、より良い施設・設備の導入が進んだり、教育改革などに投資したりと考えられます。

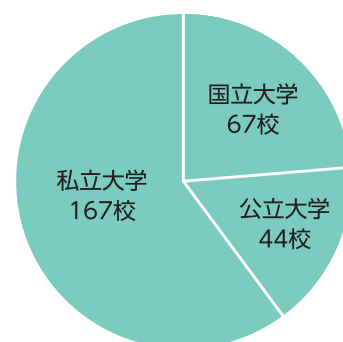
#### 学生一人あたりの教員比率

学生一人あたりの教員比率が高いほど、少人数教育が実現し、学生一人ひとりに寄り添った指導を期待できるといえます。

#### 教員一人あたりの論文数

教員一人あたりの論文数および競争的資金獲得数が多いほど、その大学で研究が盛んに行われていることを表し、学生は教授から最先端の研究について学ぶことができると考えられます。

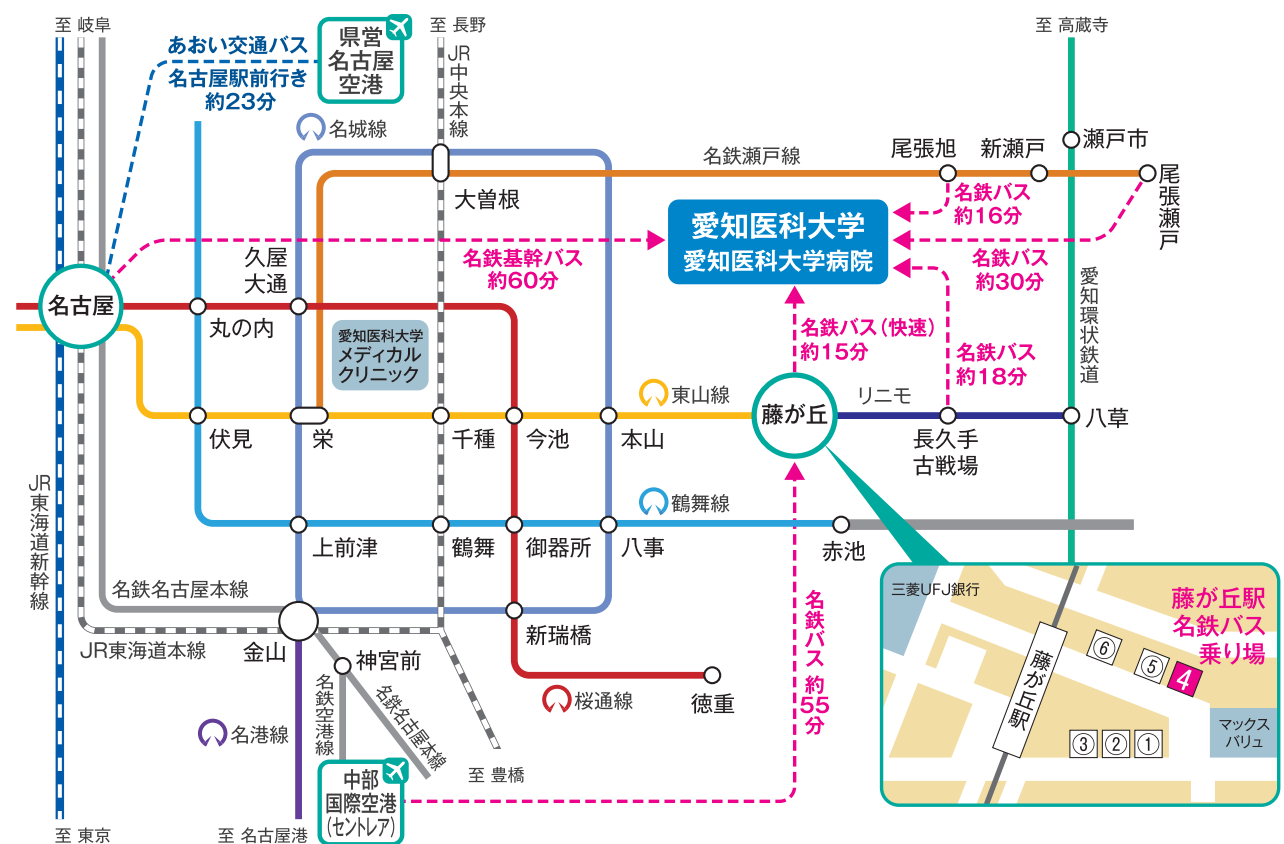
THE 世界大学ランキング日本版2020  
ランキング対象校は278校



| 順位  | 大学名      | 教育リソース |
|-----|----------|--------|
| 1   | 東京大学     | 86.5   |
| 2   | 東京医科歯科大学 | 84.2   |
| 3   | 東北大学     | 84.1   |
| 4   | 京都大学     | 83.4   |
| 5   | 京都府立医科大学 | 82.8   |
| ... | ...      | ...    |
| 15  | 福島県立医科大学 | 76.5   |
| 16  | 九州大学     | 76.4   |
| 17  | 愛知医科大学   | 75.7   |
| ... | ...      | ...    |

### 公共交通機関でお越しの場合

名古屋駅から「地下鉄 東山線」で「藤が丘」駅まで25分、名鉄バス乗車約15分。  
(タクシーの場合、「藤が丘」駅から約10分。)



### 自動車でお越しの場合

#### 有料道路利用

東名高速道路「名古屋I.C.」から約15分、または名古屋瀬戸道路「長久手I.C.」から約10分。  
名古屋第二環状自動車道「本郷I.C.」から約15分。  
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から約30分。



愛知医科大学・愛知医科大学病院